

【第2章】
全国アントレプレナーシップ
人材育成プログラム

【第2章】 全国アントレプレナーシップ 人材育成プログラム

■受講機会創出に向けた全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの検討

- 5.1 全国アントレプレナーシッププログラムの取組背景と2022年度の実施結果
- 5.2 2022年度実施した全国プログラムの具体的な内容
- 5.3 2022年度実施した全国プログラムに関するアンケートの結果
- 5.4 2023年度に向けた検討課題の整理

全国プログラムの目的・位置づけ

- ✓ 国内のアントレ教育の普及は途上段階であり、アントレ教育の認知拡大・受講機会の提供、教育的価値の向上に向けて、全国プログラムを実施する

大学の現状※

認知不足・ 関心醸成不足	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分自身にとって必要な教育であると認知している学生が少なく、保護者や産業界もアントレ教育に関する重要性の理解が途上段階である
受講機会の 不足	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育を実施している大学が国内大学の内約33%、学生受講率は3%と、受講機会が十分ではない
ノウハウ・ インフラ・ リソース不足	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全学的な取組を行っている大学等は限られ、教育に必要な学内外リソースや教育の開発や評価等のノウハウ獲得・整備が途上段階である

大学のアントレ教育の目指す姿

認知向上・ 関心醸成	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の対象となる学生だけでなく、学生を取り巻く大学内外でアントレ教育の機運が醸成されている
受講機会の 提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生自身が所属する大学・地域に影響されることなく、アントレ教育の受講機会が提供できている
教育的価値向上 (ノウハウ・インフラ・ リソース拡充)	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の実施に必要な学内外の人材・組織等が巻き込めており、プログラム開発や効果検証等質を高めるためのPDCAサイクルが回している

全国プログラムを通じた現状の改善

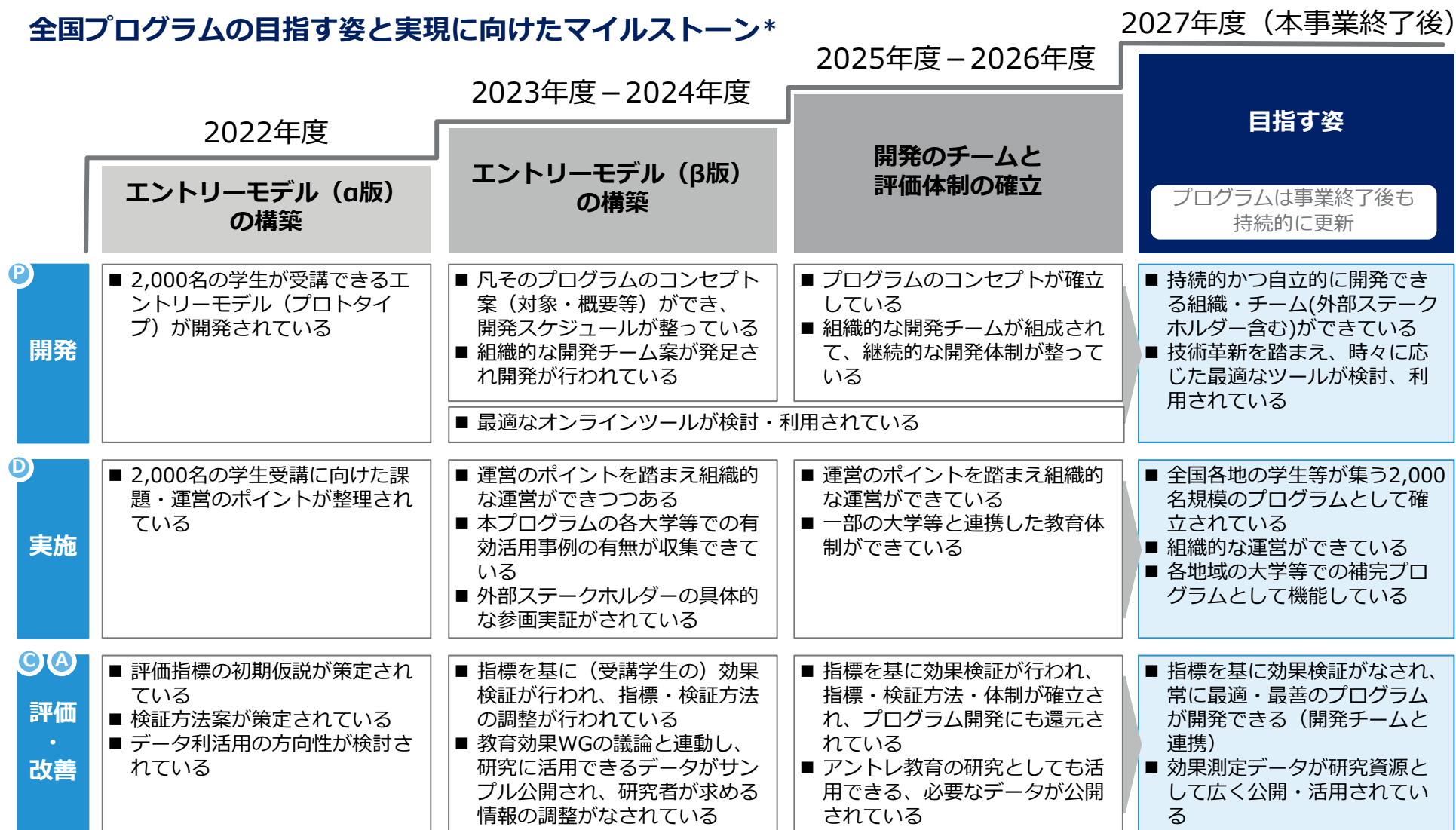
施策の方向性	1	認知向上・ 関心醸成	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロールモデルの明確化及び学生が自分事に捉えられる関心のあるテーマ・内容の設計 ■ 学生・教職員コミュニティ・その他保護者や産業界等の関係者への広報
	2	受講機会提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受講機会に恵まれない学生（特に地方やアントレ教育を全学として実施していない大学等）へのオンラインプログラム受講機会の提供・リソースの確保
	3	教育的価値向上 ノウハウ・インフラ・ リソース拡充	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム開発や運営等に関するノウハウや教育効果測定指標の整理 ■ 教職員や産業界等の外部ステークホルダーの巻き込みによるノウハウ・リソースの確保

※2020年度大学におけるアントレプレナーシップ教育に関する調査報告書の第1章(P.10及びP.12)を踏まえ整理

全国プログラムの目指す姿と実現に向けたマイルストーン

- ✓ 持続的自立的な運営を目指し、全国プログラムの開発を進める必要がある

全国プログラムの目指す姿と実現に向けたマイルストーン*

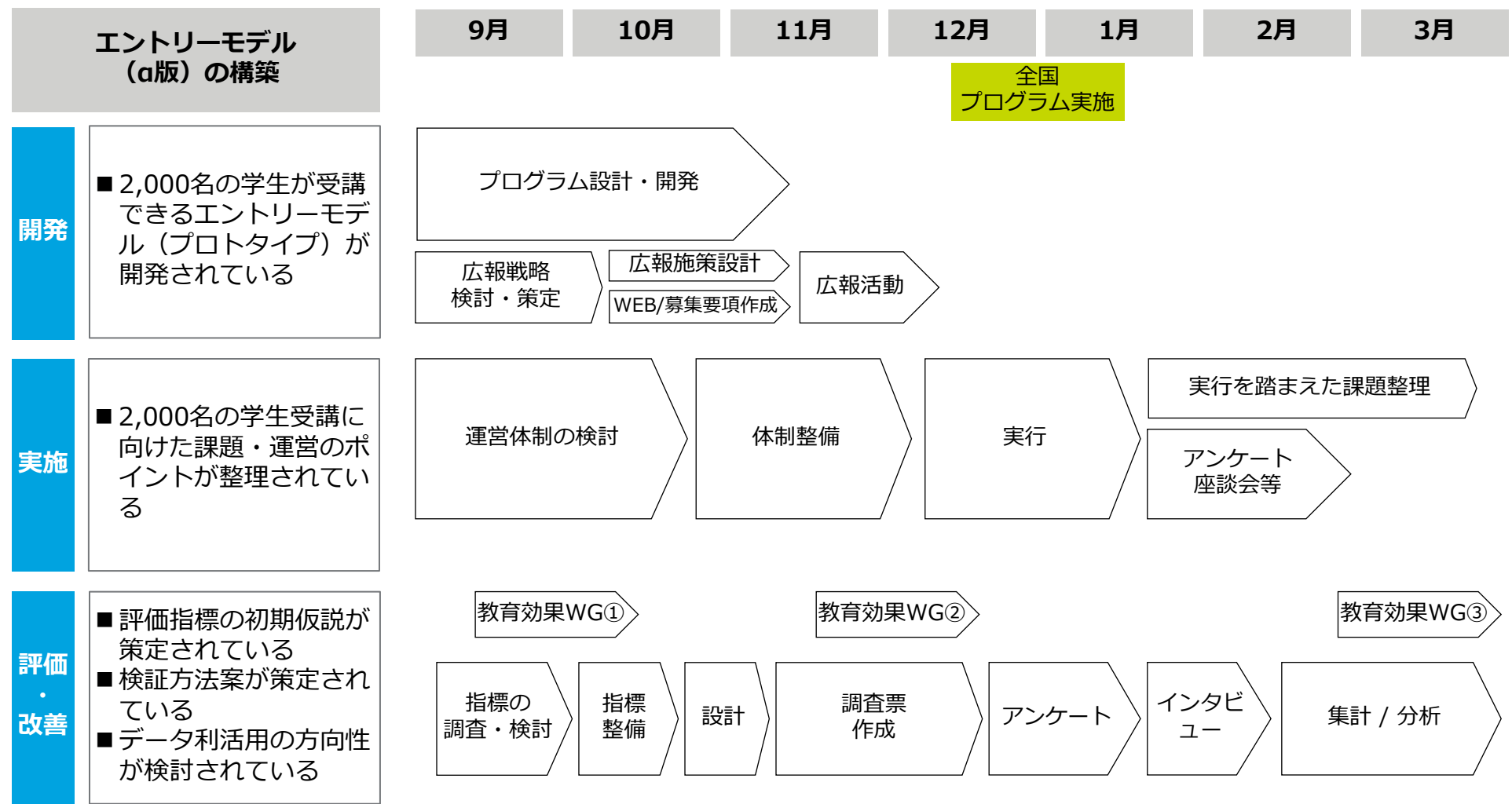


*：内容は2022年度現在のものであり、外部環境や本事業の進め方の変化等により修正、更新される可能性あり

重点テーマを踏まえた2022年度の推進スケジュール

✓ 2022年度は、本事業開始が10月からであったことを前提に、受講者の都合及び事業全体のバランスを鑑み、冬期休暇期間でのプログラム開催とし、企画・プロモーションを実施した

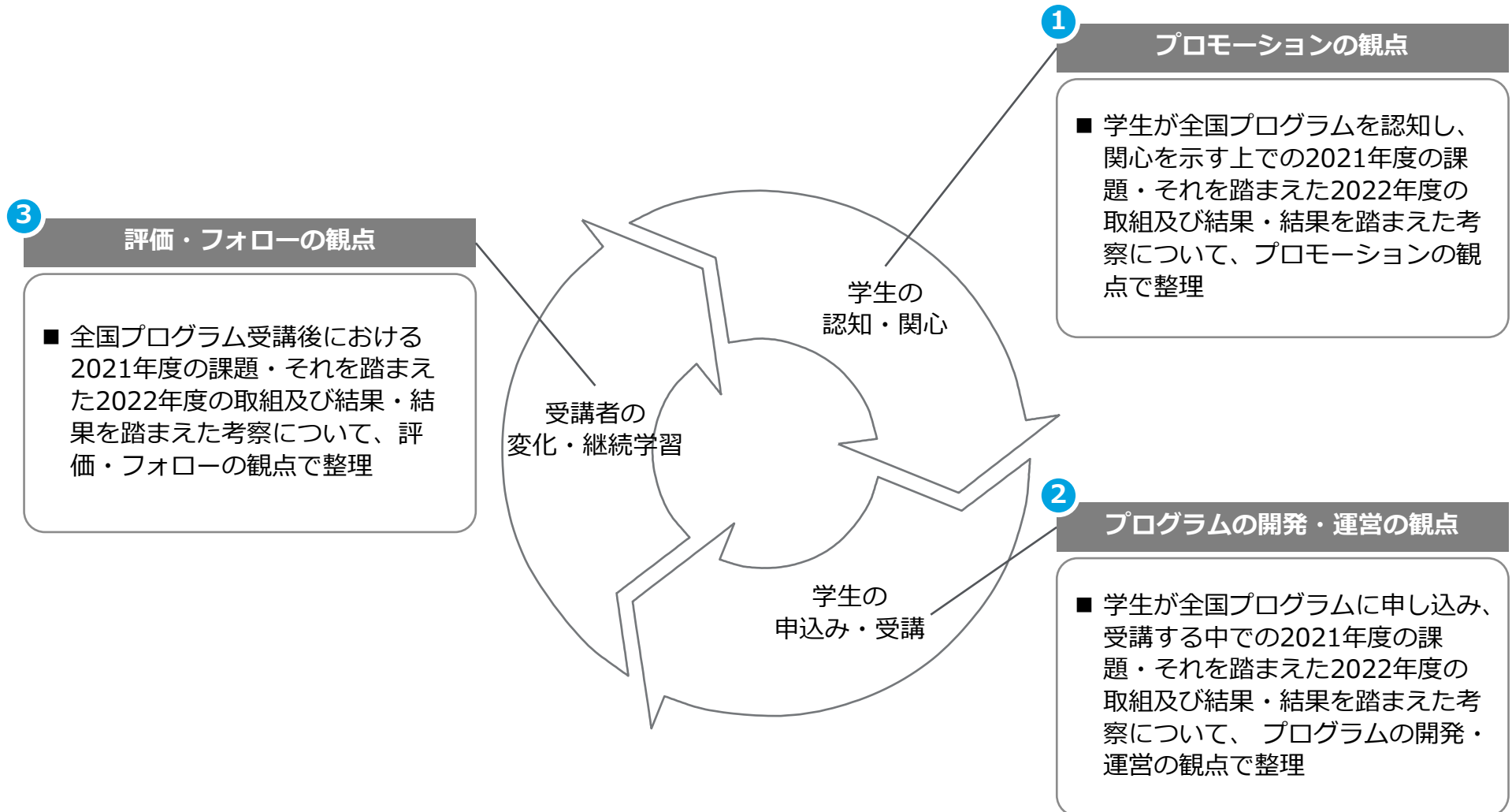
2022年度の推進スケジュール



全国プログラムの振り返りの観点の整理

- ✓ プロモーション、プログラム開発・運営、評価・フォローの観点で2022年度の全国プログラムを振り返った

次ページからの観点の整理



2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度の取組事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムでの気づき課題を踏まえ、プロモーションを行った

2021年度の主な課題と2022年度の取組事項 1/3

視点	2021年度の気づき・課題	
	運営	学生等
1 プロモーション	認知	<ul style="list-style-type: none"> ■ WEBマーケティング（SNS広告）が有効 認知機会は大学媒体に次いで、WEB広告であった
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の関心事項にあった情報の発信が必要 受講するまでは、プログラムの詳細が分からず、自身が適切な対象なのか、プログラムを受けていいのか判断しにくい等の声があった
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 文部科学省主催・同年代が受講・起業志向ばかりの学生だけでない等の心理的安心感の確保が必要 WEBサイトには、約2.4万人のアクセスがあったが、申込は1,400名（申込率約6%）
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 認知・裾野拡大に向け、大学組織への案内に加え学生コミュニティへの訴求が必要
関心	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム受講意義・インセンティブの訴求が必要 座談会にて受講意義やメリットが公開情報だけでは分かりにくいとの声があった 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続的な学びの場の確保が必要（民間企業等の巻き込み） プログラム受講後の学生が活動できる場づくり、プログラム品質の向上・学生のインセンティブとして巻き込みが必要 	

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項

- 全国プログラムは文部科学省が主催で行っているという安心感を与える打ち出し
- ターゲット学生のペルソナ像の設定と関心テーマ・キーワードを踏まえた認知活動
- 学生コミュニティへの認知活動
- 反応が良かったSNSを中心としたマーケティング
- 2021年度受講者の声の活用や文科省担当者及び講師によるプログラム説明動画の作成・公開
- WEBページデザインの刷新
- プログラムの受講で獲得できるスキル・経験、全日程受講で獲得できる受講修了証等の受講メリットの訴求
- 民間企業等へのプログラム見学機会の提供

2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度の取組事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムでの気づき課題を踏まえ、プログラム開発・運営を行った

2021年度の主な課題と2022年度の取組事項 2/3

視点		2021年度の気づき・課題	
運営	学生等		
2	プログラム開発・運営	申込・受講	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受講率を高める仕組み・仕掛けが必要 当日欠席やプログラム途中辞退が一定数発生した
			<ul style="list-style-type: none"> ■ グループ毎の討議レベルのばらつき改善が必要 ディスカッションの盛り上がり・内容について課題を感じる声の一部あった
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員交流の活性化に向けた仕掛けが必要 教職員間の交流がほとんど見られなかった

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項

■ 受講者の早期巻き込み

プログラムが開始される数週間前から、Teamsに招待し、自己紹介等や参加者・グループ間等での交流を促した

■ オフィスアワーの実施

プログラム開始前に任意でのオフィスアワーを実施し、講師と受講者の交流機会を設定した

■ 事前リマインド・ツールのマニュアル改善

受講者に対しツール利用に関する説明をリマインド連絡した他ツールマニュアルのブラッシュアップ行い、また新たに動画マニュアルを作成した

■ ファシリテーターの配置・指示書の活用

グループを巡回し必要に応じアドバイスをを行うファシリテーターの設置（コース1）や、討議のガイドとして手順等を示した指示書（コース2）を用意した

■ グループワーク編成の事前設定

学年・性別・アントレ教育の受講経験等、受講者の申込情報を踏まえ、所属するグループを事前に設定した

■ FDプログラムの開発と実施

コース2に紐づく形式で、教職員への学習機会提供及び交流促進のために全国プログラムの実施前後で実施

2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度取組事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムでの気づき課題を踏まえ、評価・フォローについて取り組んだ

2021年度の主な課題と2022年度取組事項 3/3

視点		2021年度の気づき・課題
運営	学生等	
3	評価・フォロー	<p>■ 継続的な学習や活動・交流機会の提供が必要 プログラム終了後、Teams上でのコミュニケーションはあまり活発には行われなかった 学んだ後、次に続くような学習や活動・交流機会がない</p>
		<p>■ プログラムの効果測定指標の整理・作成が必要 全国プログラムによる客観的な効果が不明確であった 各大学でも効果検証は途上段階であり、プログラムを通じ効果を想定できる指標の整理・作成が必要</p>
	変化・継続学習	

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2021年度の課題を踏まえた2022年度取組事項

- アントレ教育に関連するイベント等の情報発信**
拠点都市・大学・民間企業・文部科学省等が関わるアントレ教育関連のイベントについて情報発信を行った
- オンライン学生イベントの実施**
2022年度受講をした学生を対象にオンラインイベントを行い、学生の交流機会を創出した
- 教育効果指標の整理**
本事業全体の取組として、教育効果ワーキンググループを組成し教育効果指標の整理・検討を行った
- 効果検証（アンケート・インタビュー）の実施**
教育効果ワーキンググループで検討した項目を踏まえアンケートを設計・実施し、これに加え、パイロット調査として学生へのインタビューを実施した

2022年度の取組事項に対する結果

✓ 2022年度の取組に対し、概ね課題に応える結果になったが、一部引き続きの課題も確認できた

取組結果 1/3

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

視点		2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項
運営	学生等	
1 プロモーション	認知・関心	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムは文部科学省が主催で行っているという安心感を与える打ち出し
		<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット学生のペルソナ像の設定と関心テーマ・キーワードを踏まえた認知活動
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生コミュニティへの認知活動
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 反応が良かったSNSを中心としたマーケティング
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 2021年度受講者の声の活用や文科省担当者及び講師によるプログラム説明動画の作成・公開
		<ul style="list-style-type: none"> ■ WEBページデザインの刷新
		<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムの受講で獲得できるスキル・経験、全日程受講で獲得できる受講修了証等の受講メリットの訴求
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業等へのプログラム見学機会の提供

取組結果

- **文科省主催が申込みの要因の一つになっている**
文部科学省が主催しているため、申込みをしたという60件程度あった
- **サイト訪問約2.1万件・全国の学生から申込み**
2021年度より短い期間で、地方含め全国の学生からの2.1万件のアクセス・959件の申込（高校生・高専生・大学生・大学院生）があった
- **全国プログラムへの申込動機は起業関連以外が60%**
申込動機として起業に関する以外で申し込んだ学生が約60%と2021年度と同等に傾向にある
- **（大学媒体に次いで）SNS広告による認知効果が高い**
学校媒体での認知率が高いものの、次いでSNS広告での認知が高く、また地方エリアにも効率的なプロモーションが実施できた
- **他者による推薦でのプログラム認知があった**
学校媒体、SNS次いで、他人の推薦による認知の割合が高かった
- **受講者の半数以上は受講修了証を得ていない**
受講修了証を獲得した受講者率はコース1で38%、コース2で32%（全日程出席が獲得条件）
- **全国プログラム受講意義の訴求に応える満足の声があった**
他校の学生との交流、社会課題の課題設定や解決手法、アントレプレナーシップへの関心等について満足を感じる声が多数上がった
- **民間企業・団体から38名の見学申込みがあった**
教育・人材関連企業・金融機関・外郭団体等、計38名から全国プログラムの見学申込があった

2022年度の取組事項に対する結果

- ✓ 教職員へのFDプログラムについては、良い結果が見られたが、受講者の参加率やグループワークに関連する事項については、引き続きの課題が確認された

取組結果 2/3

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2	視点		2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項
	運営	学生等	
プログラム開発・運営	申込・受講		<ul style="list-style-type: none"> ■ 受講者の早期巻き込み
			<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィスアワーの実施
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前リマインド・ツールのマニュアル改善
			<ul style="list-style-type: none"> ■ ファシリテーターの配置・指示書の活用
			<ul style="list-style-type: none"> ■ グループワーク編成の事前設定
			<ul style="list-style-type: none"> ■ FDプログラムの開発と実施

取組結果

■ 出席率は50%以下

コース1：38%（申込499名）コース2：39%（申込546名）

■ 継続率は80%以上と2021年度と比して大きく改善

コース2は3日間コースであり、継続率は2日目91%、3日目85%（3日目と1目で比較）
2021年度は3日コースで74%、1か月半8回コースで約44%

■ オフィスアワーの参加者数は10名程度

コース1にて、オフィスアワー（任意参加）は、直前の連絡、正月明けの影響もあったためか、参加は10名程度だった

■ コミュニケーションツール・単位互換不可・グループワークに課題の声

コミュニケーションツールの使いにくさ、学校の単位互換不可、グループワークの再編成（欠席者発生に伴う事前に設定したグループの人数が揃わない）等に課題の声が2021年度に引き続き上がった

■ FDプログラムは高評価

50名以上の教職員が参加し満足度は83%と高い評価。事前準備の重要性や教師が介入すべきポイント、ノウハウ等が学べた等の声が上がリ、教育コンテンツ・ノウハウ提供・教職員間連携等のニーズも確認できた

2022年度の取組事項に対する結果

- ✓ 全国プログラム終了後も継続的な学習・活動機会のニーズはある
- ✓ また効果検証については、分析のための情報が徐々に整備されつつある

取組結果 3/3

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

3	視点		2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項
	運営	学生等	
評価・フォロー	変化・継続学習		<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育に関連するイベント等の情報発信
			<ul style="list-style-type: none"> ■ オンライン学生イベントの実施
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育効果指標の整理
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 効果検証（アンケート・インタビュー）の実施

取組結果

■ 継続的な学習・活動機会を求めている

事務局案内したイベントや事務局主催のイベントに多数の学生が参加して、またアンケートや座談会からもニーズが伺える

■ 約50名の学生がオンラインイベントに申込

3/29にオンラインの学生交流イベントを開催し、約50名の学生から申込があった。自分自身の取組や、悩み等様々なテーマで、学生同士が意見交換を行い、大いに盛り上がった

■ 検証データの確保

効果検証の実施として、コース2において、全国プログラムを受講した学生のアンケートデータ（約200名）と全国プログラムを受講していない学生アンケートデータ（約1,000名）をコントロール群として回収し、効果検証できるデータを確保した

■ 学生インタビューデータの確保

コンピテンシーの向上有無・全国プログラム受講後の行動有無を基準にポジティブ群とネガティブ群に分け、双方にインタビューを行い、定性定量的分析データを収集した（パイロット調査）

結果の考察・解釈

- ✓ ペルソナ像の更なる具体化、コミュニティへの働きかけ、インセンティブの再検討等、2023年度以降更なる認知・関心向上に向けた気づきが得られた

結果の考察・解釈 1/3

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

1	プロモーション	認知・関心	視点	取組結果
			運営	
				<ul style="list-style-type: none"> ■ サイト訪問約2.1万件・全国の学生から申込み
				<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムへの申込み動機は起業関連以外が60%
				<ul style="list-style-type: none"> ■ 受講者の半数以上は受講修了証を得ていない
				<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラム受講意義の訴求に応える満足の声があった
				<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学媒体に次いでSNS広告による認知効果が高い
				<ul style="list-style-type: none"> ■ 他者による推薦でのプログラム認知があった
				<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業・団体から38名の見学申込みがあった

考察・解釈

ターゲットの明確化と受講意義・インセンティブの訴求

- **ペルソナの更なる具体化が必要**
ペルソナの設定は有効であり、2023年度以降はペルソナ像のより具体化することでより多くの学生の認知・関心に働きかけることができる
- **関心テーマの継続検討が必要**
学生の関心テーマは時流に応じて変わるものであり、継続的にテーマ・キーワードは検討すべきである
- **ロールモデルの設定・発信、受講意義の訴求が必要**
起業以外に受講意義を感じている層が多く、ロールモデルの設定や参加者の声の詳細化等通じ、更なる認知・関心の向上が期待できる
- **受講インセンティブの再検討と更なる訴求が必要**
現状の修了証は有効な施策でない可能性が高い。また、プログラム申込率も改善余地があり、インセンティブの見直しや受講意義の訴求が必要

情報発信・学生へのタッチポイント強化

- **学生コミュニティへの継続的な案内が必要**
大学媒体に依存せず、持続的な認知向上・関心醸成のためには学生コミュニティへの更なる働きかけが必要である
- **WEBマーケティングは特に地方で効果的・効率的**
WEBプロモーションは、特に地方エリアには効率的・効果的である

民間企業等ステークホルダーの巻き込み推進

- **民間企業等との具体的連携に向けた継続議論が必要**
産業界は、一定アントレ教育に関心があることが何れも具体的な連携に向けた議論を今後進め産業界と大学等のwin-winな関係を検討すべき

結果の考察・解釈

- ✓ 運営面では、出席率を高める取組や効率的効果的な運営方法、教職員の共通関心テーマの設定による交流促進等の示唆が得られた

結果の考察・解釈 2/3

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2	視点		取組結果
	運営	学生等	
プログラム開発・運営	申込・受講		<ul style="list-style-type: none"> ■ 出席率は50%以下
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続率は80%以上と2021年度と比して大きく改善
			<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィスアワーの参加者数は10名程度
			<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニケーションツール・単位互換不可 ・グループワークに課題の声
			<ul style="list-style-type: none"> ■ FDプログラムは高評価

考察・解釈

■ モチベーションの維持・向上に繋がる事前対応の強化が必要

事前オリエンテーションやプログラムの詳細情報の早期開示・魅力の訴求、学生同士の事前交流、単位互換、参加者の声等、受講モチベーションの維持・向上に働きかける取組が必要である

■ 受講人数に影響されない運営方法・技術の検討が必要

コース1ではファシリテーターを配置し、コース2では指示書によるドキュメントガイドを基に進行した。いずれも利点欠点はあるものの、人的リソースにも限界があるため、人数規模に影響されにくいような運営方法・技術の検討が必要である

■ 教職員の共通関心テーマの設定と交流機会等の設定が必要

FDプログラムの満足度は高く、ノウハウや教職員の理解・教育的価値の向上（自大学での展開等）に大いに貢献した。ノウハウの提供の他、情報交換等、コンテンツ提供等教職員のニーズを踏まえた取組を実施すべきである

結果の考察・解釈

- ✓ アントレ教育に関連する情報発信やこれらの情報発信方法、オンラインに限らない機会の在り方、効果検証の分析の必要性について示唆が得られた

結果の考察・解釈 3/3

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

視点		取組結果	
運営	学生等		
3	評価・フォロー	変化・継続学習	<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続的な学習・活動機会を求めている
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 約50名の学生がオンラインイベントに申込
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 検証データの確保
			<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生インタビューデータの確保

考察・解釈

- **プログラム受講後の学習・活動機会の情報の継続発信が必要**
2022年度実施した座談会の声や学生イベントでも改めてニーズは確認できており、継続学習の観点・アルムナイの組成・民間企業等の巻き込み等の観点からもこのような取組は重要である

- **プラットフォームに所属するステークホルダーの情報発信、オンラインイベントに対応できる技術の導入が必要**
現状の情報発信は事務局に限られており、学生・教職員コミュニティの活性化や民間企業等の巻き込みの観点から、事務局に限らない発信機会が必要である。また、今後の大人数のイベントを見据えてオンラインイベントに対応できるIT環境の整備、技術の導入が必要である

- **オンラインに限らないオフラインの場の設定も必要**
2022年度実施した座談会の声でもオンラインに限らない場のニーズが確認できており、より活発な交流・活動を促進するためには、オフラインの場も必要である

- **引き続き教育効果分析の実施が必要**
効果検証には時間がかかるが、2022年度の取組で検証をするための情報が整備されつつあり、今後は分析を推進していく必要があり、強かに推進していくためには、ワーキンググループの有識者や、調査に協力頂いた教職員等を中心にしたタスクフォースチームの検討も必要である

2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度の取組事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムでの気づき課題を踏まえ、プロモーションを行った

2021年度の主な課題と2022年度の取組事項

視点		2021年度の気づき・課題
運営	学生等	
プロモーション	認知	<ul style="list-style-type: none"> ■ WEBマーケティング（SNS広告）が有効 認知機会は大学媒体に次いで、WEB広告であった
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の関心事項にあった情報の発信が必要 受講するまでは、プログラムの詳細が分からず、自身が適切な対象なのか、プログラムを受けていいのか判断しにくい等の声があった
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 文部科学省主催・同年代が受講・起業志向ばかりの学生だけでない等の心理的安心感の確保が必要 WEBサイトには、約2.4万人のアクセスがあったが、申込は1,400名（申込率約6%）
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 認知・裾野拡大に向け、大学組織への案内に加え学生コミュニティへの訴求が必要
プロモーション	関心	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム受講意義・インセンティブの訴求が必要 座談会にて受講意義やメリットが公開情報だけでは分かりにくいとの声があった
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続的な学びの場の確保が必要（民間企業等の巻き込み） プログラム受講後の学生が活動できる場づくり、プログラム品質の向上・学生のインセンティブとして巻き込みが必要

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項

- 1 全国プログラムは文部科学省が主催で行っているという安心感を与える打ち出し
- 2 ターゲット学生のペルソナ像の設定と関心テーマ・キーワードを踏まえた認知活動
- 3 学生コミュニティへの認知活動
- 4 反応が良かったSNSを中心としたマーケティング
- 5 2021年度受講者の声の活用や文科省担当者及び講師によるプログラム説明動画の作成・公開
- 6 WEBページデザインの刷新
- 7 プログラムの受講で獲得できるスキル・経験、全日程受講で獲得できる受講修了証等の受講メリットの訴求
- 8 民間企業等へのプログラム見学機会の提供

具体的なプロモーションの内容

✓ サイト訪問者の興味・関心を引き立たせるように掲載内容とデザインを一新した

WEBページのリニューアル ①⑤⑥⑦

2021年度Webサイト



2022年度Webサイト



- 重厚感のあるデザインをベースに、プログラムの情報発信を記載
- 文部科学省主催ということが一見分かりやすく、文字による情報中心で内容まではイメージしづらい

- 興味・関心を引き立たせる内容・デザインを一新
 - 緑をベースにしたさわやかなデザインを採用 文部科学省主催が主催していることがすぐ分かるように、ページ上段のロゴを設置
 - 参加者の声を記載し、どんな内容だったのか、何がよかったのかを記載
 - プログラムを通じ得られる経験・メリットを記載

具体的なプロモーションの内容

- ✓ 全国プログラムの対象とするペルソナ像を幾つか設定し、そのペルソナに応じたキーワードを設定し、プロモーションを行った

ペルソナ像及び関心テーマ・キーワード設定 ②④

学生ペルソナ A【起業の仲間探し】

〇〇大学
工学研究科
大学院1年生

- 起業への思い：起業の予定があり、起業仲間を探している
- プログラムへの思い：一緒に活動できそうなメンバーに出会いたい
- 将来への思い：エネルギー領域の問題解決に関する起業に生かしたい

学生ペルソナ B【大学生生活の充実】

〇〇美術大学
デザイン学部
大学1年生

- 起業への思い：起業はピリピリ感のある印象
- プログラムへの思い：プログラムを通じて多くの体験をして、アートのテーマを広げたい
- 将来への思い：まだ学部1年のため多くの経験を積みたい。アントレの勉強は将来に役に立つと考える

学生ペルソナ C【地域課題の解決】

〇〇薬科大学
薬学研究科
大学院2年生

- 起業への思い：起業をする予定は無い
- プログラムへの思い：単科大学のため、プログラムを通じて他大学の学生との交流を増やしたい
- 将来への思い：研究生生活を充実させたい。薬剤師の資格を持つため、地域課題解決に取り組みたい

学生ペルソナ D【就職活動への活用】

〇〇大学
教育学部
大学3年生

- 起業に対する思い：起業の予定がなく就職活動をしている
- アントレプログラムに対する思い：チームメンバーからのアドバイスを通じ社会人のスキルを身に付けたい
- 将来についての思い：大学内イベントをもっといい企画にしたい、就職活動を頑張りたい

ターゲットを踏まえた
キーワード設定※

【社会・ネットワーク観点】

- 社会ネットワーク
- ボランティア
- ネットワーク

【専門ワード観点】

- 再生可能エネルギー
- 太陽エネルギー
- エネルギー資源
- 新エネルギー
- 医療・医療機関

【キャリアの観点】

- 求職活動
- キャリア
- 研究
- 中小ビジネス
- マーケティング
- マーケティング戦略

【起業の観点】

- 起業
- 起業家
- 女性起業家
- 社会起業家
- スタートアップ
- ビジネスモデル
- 戦略的経営
- マーケティング
- マーケティング戦略

※特にWebマーケティングにキーワード設定時に利用
人気のキーワードは広告費用が高くなるため、予算を踏まえ、ペルソナに
関連するキーワードを吟味し設定

具体的なプロモーションの内容

- ✓ ペルソナ像・キーワードを踏まえ、WEB広告を実施した。メインの認知機会は学校媒体であるものの、次いでSNS・Web、他人の推薦、学生団体、学生コミュニティでの認知が高かった

WEB広告の実施と結果 ①②④

プロモーションのクリエイティブ



【SNS広告】

全国のターゲット層に広告設定し、約27万人に対し表示させ約1,500件のクリック

【ディスプレイ広告】

全国のターゲット層に広告設定し、約800万回の表示を行い約4,000名のクリック

【リスティング広告】

ターゲットが関心を持ちそうなキーワードを設定し、約13,000回表示をさせ約1,200件のクリック

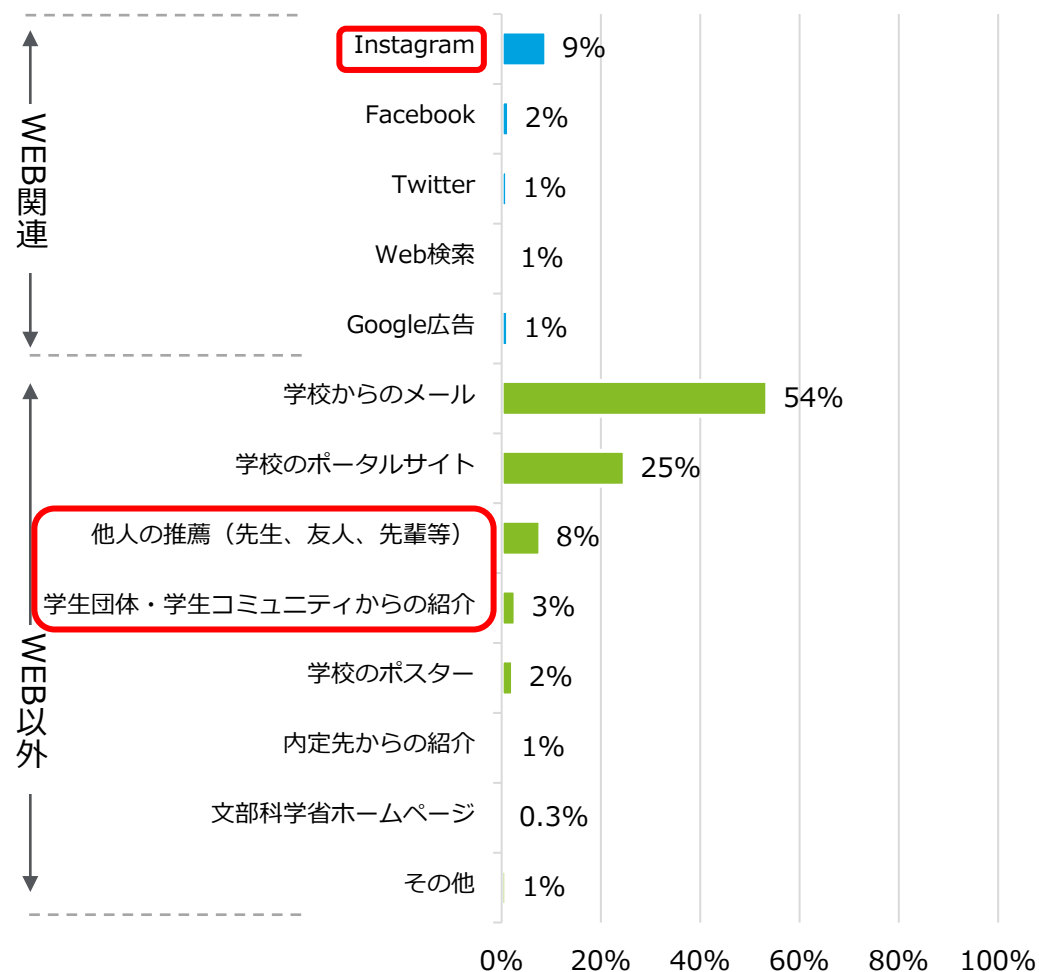
学生コミュニティへの認知活動 ③④

- WEB広告でのターゲット設定に加え、学生NPO団体や学生コミュニティ（これと接点がある先も含む）へのプログラムの案内を実施

【具体的な案内先】

- 拠点都市の運営事務局
- 拠点都市の中核インキュベーション施設
- 社会課題をテーマに学生を巻き込んで活動しているNPO団体
- 学生コミュニティを巻き込んだスタートアップ 等

申込者が当プログラムを知ったきっかけについて（複数選択）

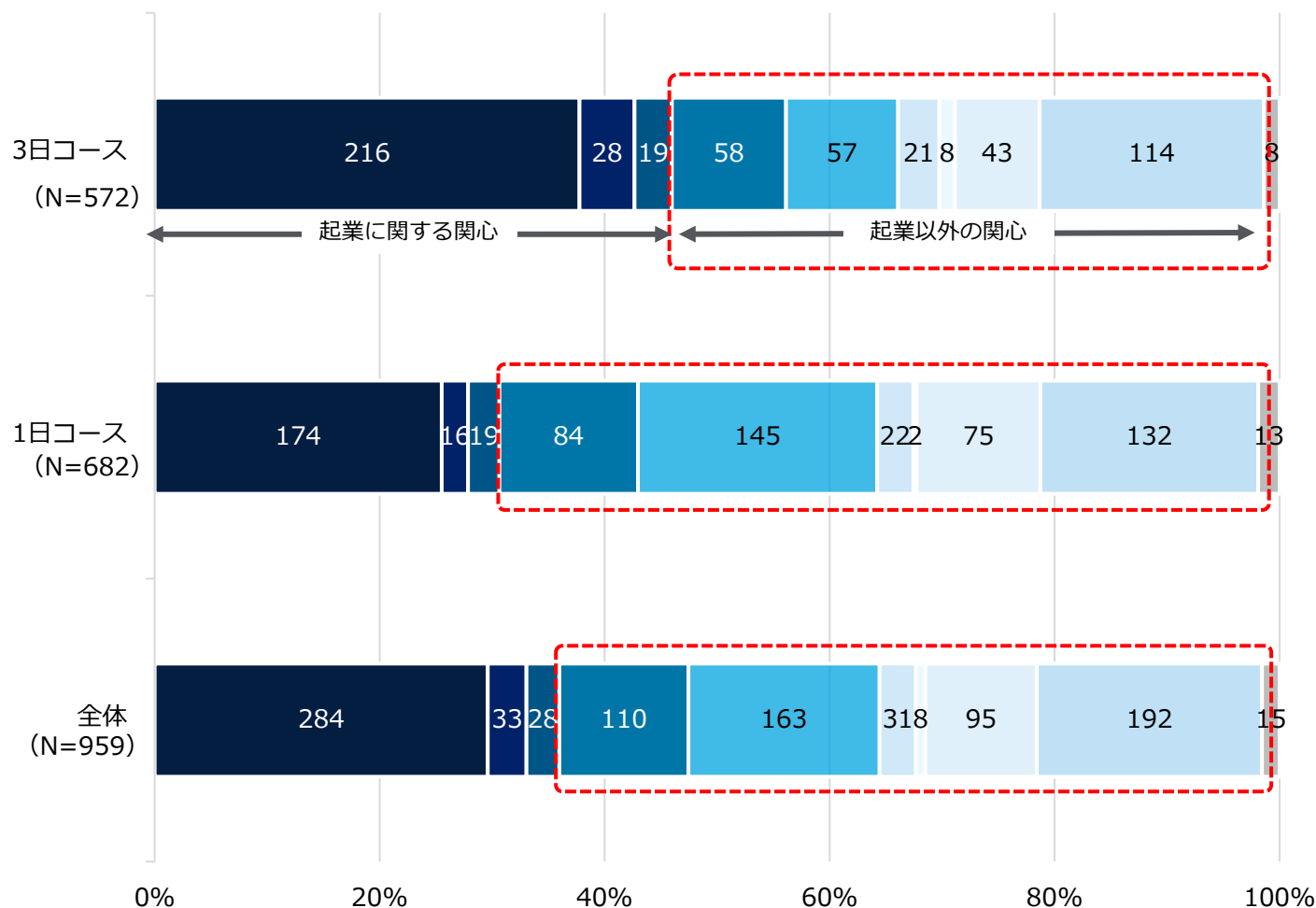


(N=959)

申込者の志望動機

- ✓ 起業に関心がある受講者は全体の約35%程度であり、3日コースでは約45%に上った
- ✓ 一方、起業の考えが無い受講者は全体の約65%であった

申込者がプログラムを志望した理由について



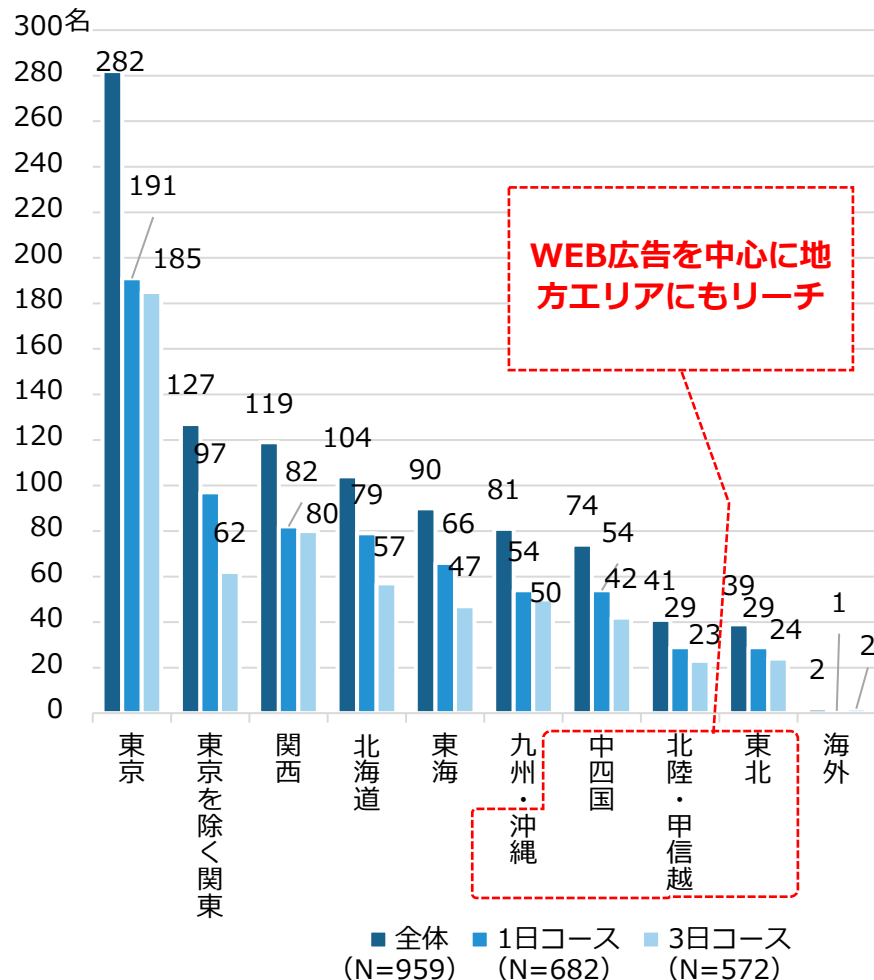
- 起業している(予定含む) ので知識を身に付けたい
- 起業している(予定含む) ので授業を通じて講師のフィードバックを得たい
- 起業している(予定含む) のでプログラムを通じて仲間を作りたい
- 起業の考えはないが、自分の将来に役立ちそう
- 起業の考えはないが、課題発見や課題解決の手法を学びたい
- 起業の考えはないが、起業はどのようなことか知りたい
- 起業の考えはないが、課題解決の仲間を作りたい
- プログラムの講師の話を知りたい
- 講義だけでなく、実践的体験型の内容もあり面白そう
- その他

- その他の理由
- ・新しいことに挑戦したい
 - ・自分が起業に向いているか確認したい
 - ・自分を変えたい
 - ・将来の選択肢として候補に入るかどうか検討したい

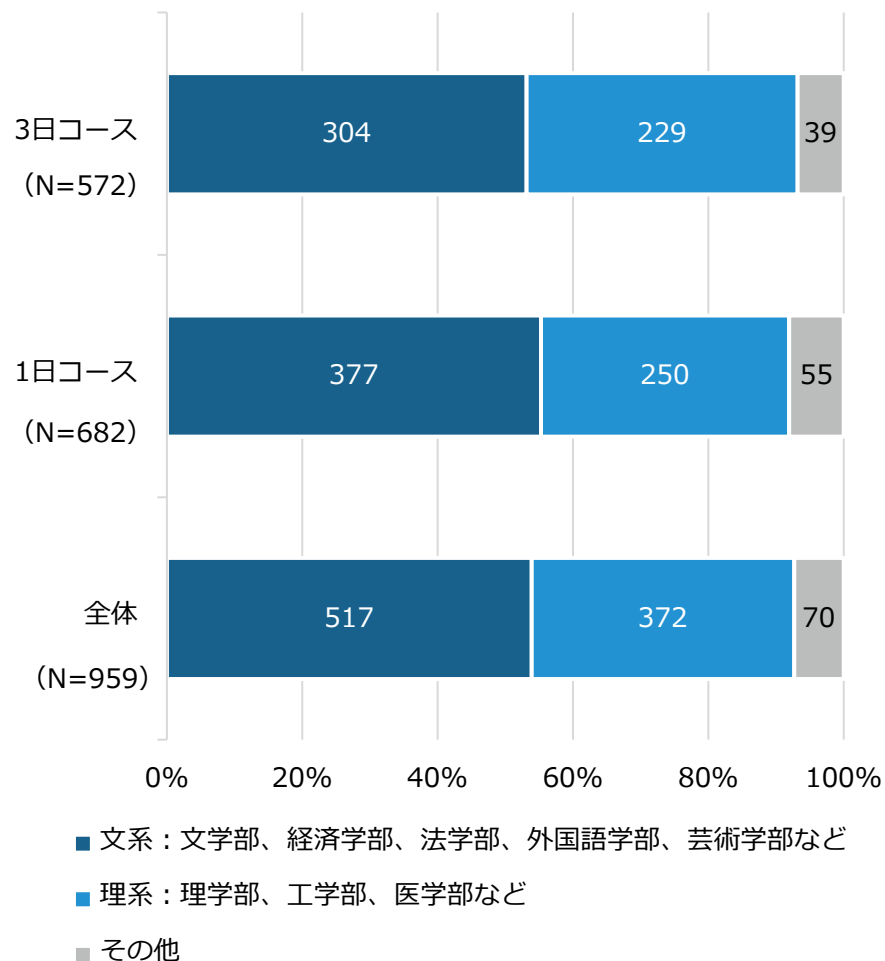
プロモーションを踏まえた申込者の情報①

- ✓ 東京及びその他関東エリアからの申込が多く、次いで関西、北海道エリアが多かった。また、文理別で見ると文系学部の学生が半分以上を占めていた

申込者の所属学校の都道府県について



申込者の学問の系統について



※東海：静岡県・愛知県・岐阜県・三重県／

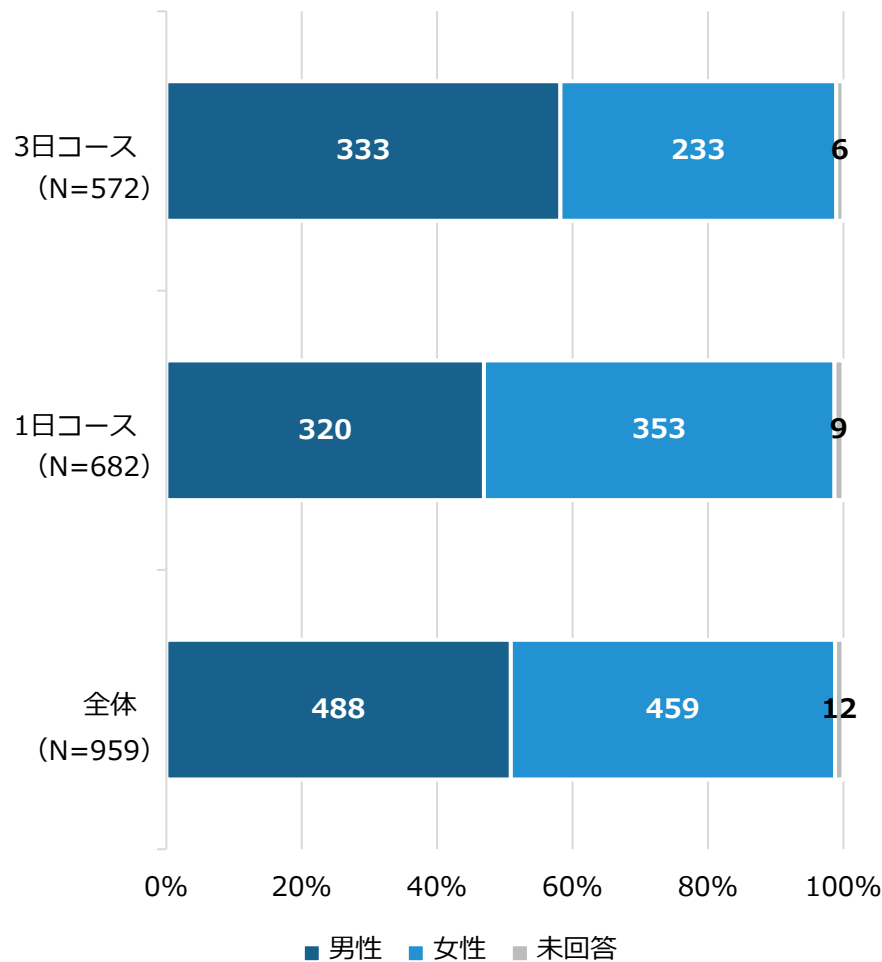
北陸・甲信越：山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県／

関西：大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県

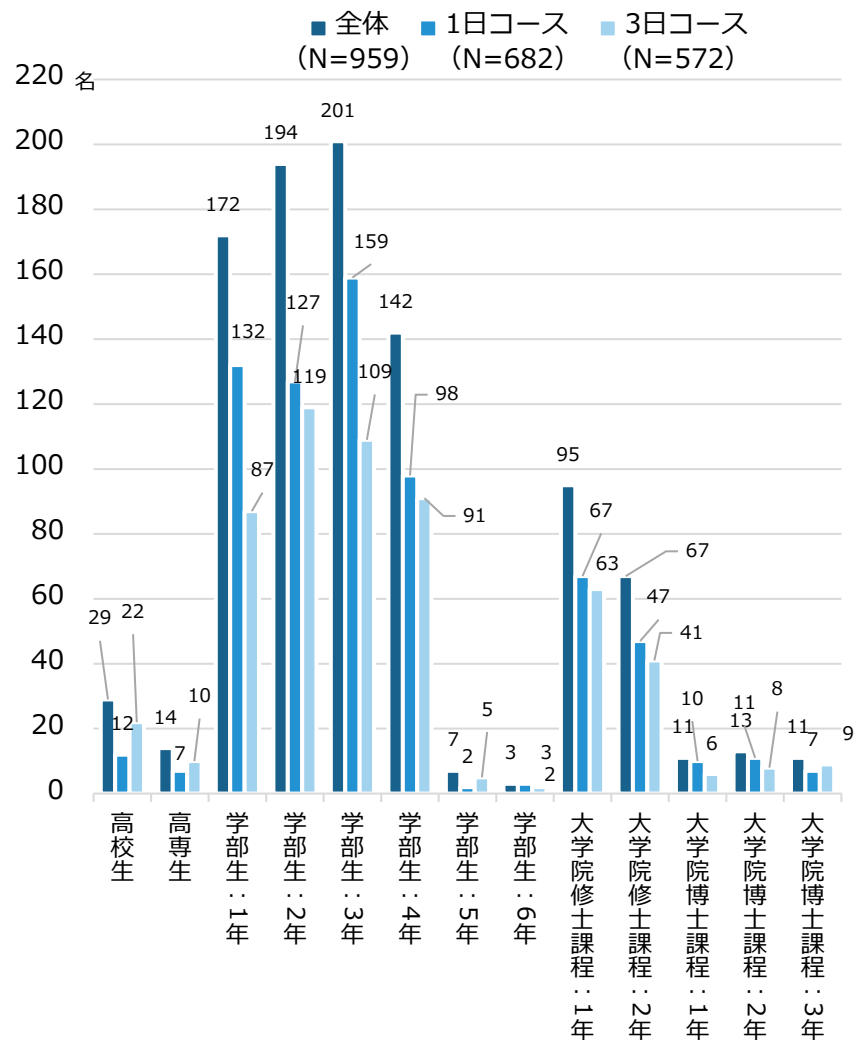
プロモーションを踏まえた申込者の情報②

- ✓ 両コースともに男女であまり偏りなく、均等のバランスで申込があった
- ✓ 申込者の内、学部1年生から学部4年生までで全体の約75%を占めたが、高校生の参加も3%ほどあった

申込者の学年について



申込者の学年について



具体的なプロモーション内容

- ✓ 民間企業等に対し、全国プログラムの傍聴機会を提供し、教育関連企業や事業会社含め38件の申込みがあった。今回は試行段階のため2023年度以降は、具体的な連携に向けてより詳細な議論・調整を進めていく必要がある

民間企業等の巻き込み ⑧

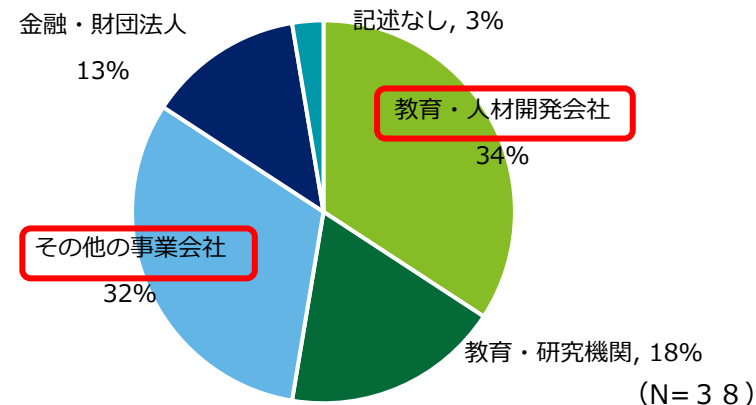
民間企業等の全国プログラムの関わり方（案）

民間企業等の関わり方としては以下の形態が挙げられ、2022年度は試行段階のため、教育プログラムの参加を通じてプログラムの設計・理念を共有し、プログラム講師、またはゲスト講演としての参加に向けた巻き込みを検討した

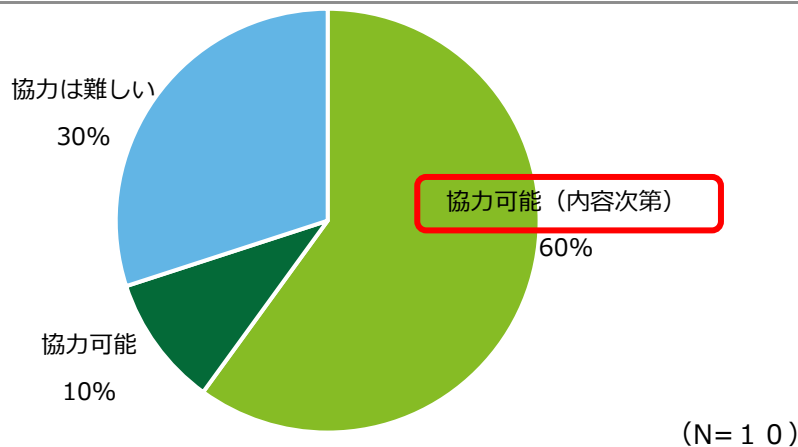
【民間企業等の参画機会（案）】

- ① プラットフォームの運営 プロモーション
- ② 教育プログラムの提供 プロモーション
- ③ 人的リソースの提供
- ④ 資金提供 等

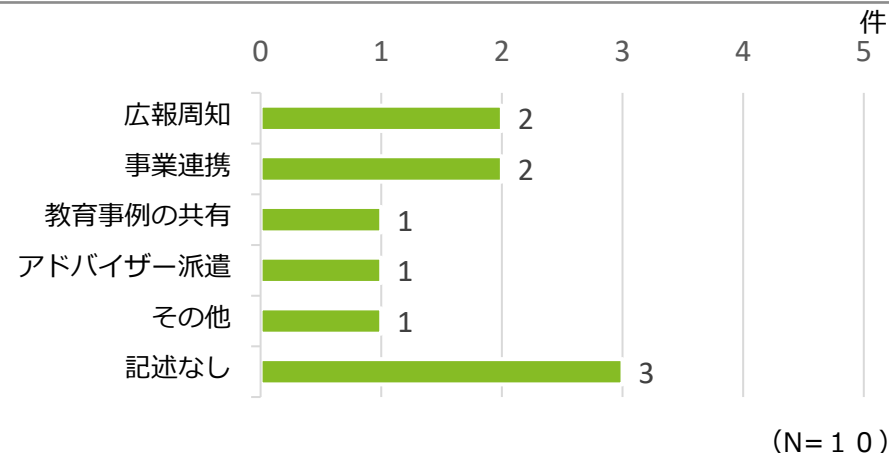
申込企業の属性



協力の可否



協力可能な活動内容



2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度の取組事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムでの気づき課題を踏まえ、プログラム開発・運営を行った

2021年度の主な課題と2022年度の取組事項

視点		2021年度の気づき・課題
運営	学生等	
プログラム開発・運営	申込・受講	<p>■ 受講率を高める仕組み・仕掛けが必要 当日欠席やプログラム途中辞退が一定数発生した</p>
		<p>■ グループ毎の討議レベルのばらつき改善が必要 ディスカッションの盛り上がり・内容について課題を感じる声の一部あった</p>
		<p>■ 教職員交流の活性化に向けた仕掛けが必要 教職員間の交流がほとんど見られなかった</p>

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項

■ 受講者の早期巻き込み

プログラムが開始される数週間前から、Teamsに招待し、自己紹介等や参加者・グループ間等での交流を促した

■ オフィスアワーの実施

プログラム開始前に任意でのオフィスアワーを実施し、講師と受講者の交流機会を設定した

■ 事前リマインド・ツールのマニュアル改善

受講者に対しツール利用に関する説明をリマインド連絡した他ツールマニュアルのブラッシュアップ行い、また新たに動画マニュアルを作成した

■ ファシリテーターの配置・指示書の活用

グループを巡回し必要に応じアドバイスをを行うファシリテーターの設置（コース1）や、討議のガイドとして手順等を示した指示書（コース2）を用意した

■ グループワーク編成の事前設定

学年・性別・アントレ教育の受講経験等、受講者の申込情報を踏まえ、所属するグループを事前に設定した

■ FDプログラムの開発と実施

コース2に紐づく形式で、教職員への学習機会提供及び交流促進のために全国プログラムの実施前後で実施

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの全体概要

✓ アントレ教育の裾野拡大に向けて、オリジナルプログラムを開発し、全国の学生に対し2022年度12月末・1月上旬に実施した

プログラムの概要

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
事業背景・目的	今、社会は急激なスピードで変化しています。文部科学省では、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる学生が全国に広がるよう、アントレ教育を推進しています。 アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、全ての人が身につけるべき資質であると考えています。
募集対象	全国の大学生・大学院生・高等専門学校生 (高校生も数十名程度参加可能)
開催形式	オンライン会議ツールZoom、オンラインコミュニケーションツールTeams
受講料金	無料（通信費等は自己負担）
その他	全日程を参加した受講者に受講修了証発行
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/

プログラム概要

コース1

社会課題
テーマコース

2023年1月7日
(土) 10-17時

社会問題の解決において思考の発散と収束を繰り返してアイデアを創出する グループワークと創出したアイデアをソーシャルビジネスに繋げる考え方を学ぶ

講師：神戸大学 鶴田宏樹先生

コース2

ビジネスでの起業
テーマコース

2022年12月26-28日13-17時

ビジネスでの起業についての学習と実践を通して、新しい物事を始めるときに役立つスキルや態度である「アントレプレナーシップ」を学ぶ

今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人、ビジネスに限らず新しい何かを始めて社会役に立ちたい人を対象とした授業

講師：東京大学 馬田隆明先生

公式WEBサイト

リーフレット

2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度の実施事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムから、内容面及び運営面について変更を行い、改善を図った

2021年度からの主な変更点

		2021年度
全国プログラム	コース1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3日間の集中開催をした ■ 学生グループワークはチーム組成はランダムに組成した
	コース2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 毎週木曜日の8週間開催をした ■ 学生グループワークはチーム組成はランダムに組成した
	FD	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実施せず

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

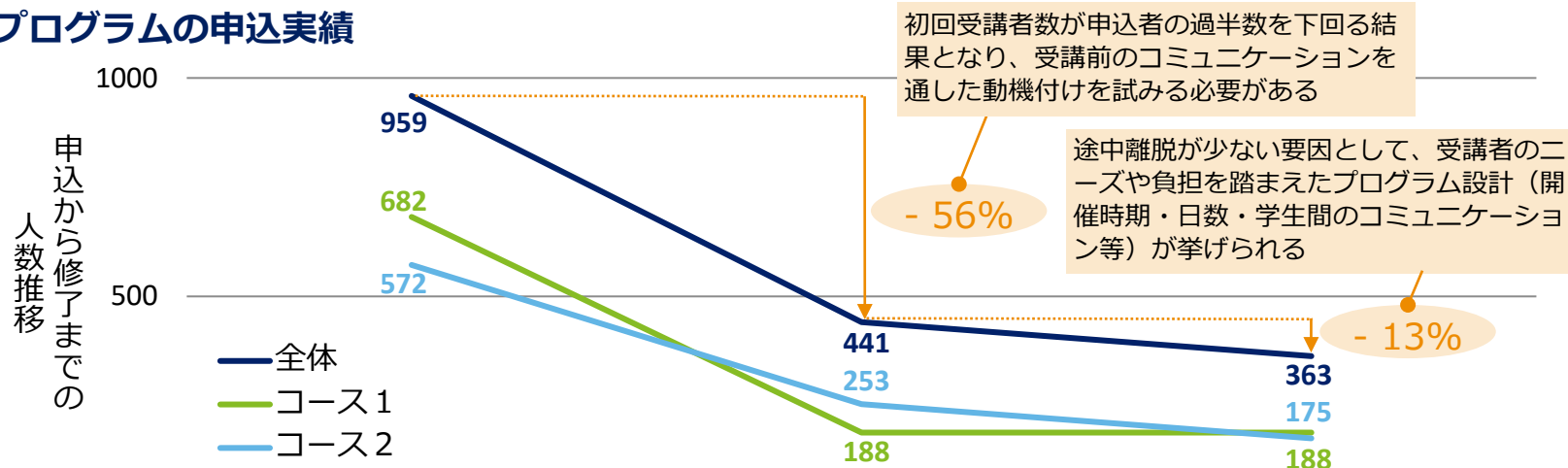
考察・解釈

2022年度
<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムコンテンツを更新し、教職員のフォロー時間を増やしたため、1日の集中開催をした ■ インタラクティブな交流を促進するため、学生グループワークのチーム構成は、アントレ教育受講の有無、性別のバランスを考慮して組成した
<ul style="list-style-type: none"> ■ 数日間の開催に関する学生の要望が最も高かったため、3日間の集中開催をした ■ インタラクティブな交流を促進するため、学生グループワークのチーム構成は、アントレ教育受講の有無、性別のバランス、地域のバランス（対面での活動のしやすさ）を考慮して組成した
<ul style="list-style-type: none"> ■ コース2のFDを実施した

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムへの申込実績

- ✓ 申込から受講にかけて人数が56%減少（途中離脱）した
- ✓ 一方で受講から修了までの途中離脱率は13%と低く、学生のニーズや負担を踏まえた設計ができたと考えられる

2022年度全国プログラムの申込実績



人数内訳		申込み			受講*1			修了*2		
		男性	女性	N/A	男性	女性	N/A	男性	女性	N/A
全体	高校・高専生	17名	26名	0名	9名	13名	0名	7名	10名	0名
	大学生	360名	348名	11名	169名	143名	3名	138名	119名	2名
	大学院生	111名	85名	1名	59名	44名	1名	48名	38名	1名
コース1	高校・高専生	5名	14名	0名	1名	4名	0名	1名	4名	0名
	大学生	242名	271名	8名	61名	65名	1名	61名	65名	1名
	大学院生	73名	68名	1名	24名	31名	1名	24名	31名	1名
コース2	高校・高専生	16名	16名	0名	8名	8名	0名	6名	6名	0名
	大学生	240名	167名	6名	100名	69名	2名	77名	54名	1名
	大学院生	77名	50名	0名	31名	13名	0名	24名	7名	0名

コース1の具体的な内容

✓ 避難所をテーマに、問題・課題の考え方、整理の仕方、事業アイデアの考え方について、講義とグループワークを実施した

詳細内容

コース1

コース2

Zoom 講義・事務局アナウンス

Teams グループワーク

Jamboard グループワーク補助ツール

#	時間	分	テーマ	内容
1	10:00-10:15	15	イントロダクション	コースの概要説明・出欠確認 (WEB回答式) Zoom
2	10:15-11:00	45	問い・問題と課題	講義 問題の捉え方とシステム思考 Zoom
3	11:00-15:00 ※1Hの 昼休憩挟む	240	“避難所”がテーマ (どのような避難所を作るか) アイデア創出 (講義+グループワーク)	講義 デザイン思考、発散思考・収束思考・思考の種類とツール Zoom グループワーク ブレインストーミングでアイデアを発散し、KJ法で収束し マトリクス法で整理し、理想な避難所を考える Teams Jamboard
4	15:00-17:00	120	“避難所”がテーマ (どのような避難所を作るか) 価値と持続性 (講義+グループワーク+ 発表+フィードバック)	講義 考えたアイデア (社会課題) をいかに解決するか フレームワークを交えながら講義 Zoom グループワーク 講義を踏まえ、いかにアイデアの解像度を高めるか、 フレームワークを活用しながらグループで議論 Teams Jamboard 発表 フィード バック 数チームが発表し、それに対しフィードバックを実施 Zoom

コース2の具体的な内容

- ✓ コース2は3日間の集中プログラムとして開発し、既存の事業化アイデアから一つをチームで検討し選び、それを売り込むまでの計画とその間の具体的な行動について、グループワークを中心に実施した

詳細内容

コース1

コース2

各日の学習内容

各日の学習内容							
1 日 目	オリエンテーション	チームング	アイデアとは	アイデア決定	仮説とは	顧客インタビュー	【宿題】顧客インタビューで検証
2 日 目	オリエンテーション	GO/NO GOの判断	MVP (実用最小限の製品)の開発	ピッチ開発	セールス準備	【宿題】セールスとピッチ準備	
3 日 目	オリエンテーション	ピッチ準備	ピッチ実施	振り返り	行動計画		

実施概要

- 既存の事業アイデアを複数提示し、グループ毎に取り扱うアイデアを選択する
- アイデア（製品）が解決できる課題（顧客のニーズ）が実在するかを顧客インタビューを通じて検証する

- 顧客インタビューを踏まえGO/NO GOの判断をし、プロトタイプとなるMVP（実用最小限の製品）を作成する
- それを投資家や顧客などに売り込むためのピッチを作成し、セールスインタビューを実践する

- ピッチを実施し、相互評価を行う
- ピッチからの学びを通じて振り返りを行う
- 講義後の行動計画を作成し、グループ内で宣言を行う

コース2の具体的な内容

✓ 提示されたアイデア（製品）について、その背景にある課題（ニーズ）の検証を行った

Zoom 常時ON（講義や連絡事項等）

Teams グループワークで使用

Google document グループワーク補助教材※

1日目の内容

コース1

コース2

#	時間	分	テーマ	内容
1 日 目	13:00- 13:20	20	オリエンテーション	講義 講師紹介・授業目的/授業の流れ説明・出欠確認 Zoom
	13:20- 13:35	15	アンケート	授業の効果測定としてアンケート実施
	13:35- 14:10	35	チーミング	グループワーク 事前に事務局側で設定したメンバー同士でTeams上で集まり、自己紹介を実施 Teams
	14:10- 14:40	30	アイデアとは	講義 アイデアの背景にある課題と解決策について説明 アイデアを複数提示し、それぞれの内容を説明 Zoom
	14:40- 15:30	50	アイデア決定	グループワーク 提示されたアイデアを調べ、グループとしてどのアイデアをグループで取り扱うかを議論して決定 Teams
	15:30- 15:55	25	仮説とは	講義 アイデアに対する検証が重要と説明 グループワーク 提示したアイデアがどのような顧客課題を解決できるものか検証 Zoom Teams
	15:55- 16:50	55	顧客インタビュー	講義 仮説検証の手法やインタビューのコツについて説明 グループワーク インタビュー練習・インタビュー実施計画の立案 Zoom Teams
	16:50- 17:00	10	まとめ	講義 講義のまとめと宿題についての説明 Zoom
	17:00以 降	-	【宿題】 顧客インタビューで検証	各々でインタビューを実践し、結果について報告

※授業のナビゲート補助機能として常に使用

コース2の具体的な内容

✓ アイデアの背景にある課題（ニーズ）の検証やMVPを作成し、セールスインタビューの練習を実施した

Zoom 常時ON（講義や連絡事項等）

Teams グループワークで使用

Google document グループワーク補助教材※

2日目の内容

コース1

コース2

#	時間	分	テーマ	内容
2 日 目	13:00-13:05	5	オリエンテーション	講義 授業の流れ説明・出欠確認 Zoom
	13:05-14:00	55	GO/NO GOの判断	講義 判断の必要性や基準について説明 Zoom グループワーク 宿題のインタビュー結果の共有・グループとしてGO/NO GOの決定 Teams
	14:00-15:00	60	MVP（実用最小限の製品）の開発	講義 MVP（実用最小限の製品）作成の重要性の説明 Zoom グループワーク セールス前提でグループとしてのMVPを作成 Teams
	15:00-16:00	60	ピッチ開発	講義 ピッチの意義を説明（顧客・投資家獲得や職員採用） Zoom グループワーク グループとしてのピッチを作成 Teams
	16:00-16:45	45	セールス準備	講義 積極的にセールス活動を行うこと・セールスから学びを得ることの重要性を説明 Zoom グループワーク セールスインタビュー練習 Teams セールス実施計画作成（宿題）
	16:45-16:55	10	まとめ	講義 講義の振り返り Zoom
	16:55-17:00	5	Day3のピッチの準備	グループワーク Day3のピッチについて検討 Teams
	17:00以降	-	【宿題】顧客インタビューで検証	作成したMVPを元に各々でセールスインタビュー実施・結果を報告

※授業のナビゲート補助機能として常に使用

コース2の具体的な内容

✓ グループ毎にアイデアに関するピッチを作成・発表を行い、評価・振り返りを行った

Zoom 常時ON（講義や連絡事項等）

Teams グループワークで使用

Google document グループワーク補助教材※

3日目の内容

コース1

コース2

#	時間	分	テーマ	内容
3 日 目	13:00- 13:15	15	オリエンテーション	講義 授業の流れ説明・出欠確認 Zoom
	13:15- 14:00	45	ピッチ準備	グループワーク 宿題のセールスインタビューの結果/学びの共有 グループとしてのピッチ内容の改善 Teams
	14:00- 15:05	65	ピッチ実施	講義 発表方法の説明・相互評価方法の説明 Zoom グループワーク Teams内の各発表チームに移動して発表 1人あたり、 Teams ピッチ（2分30秒）・Q&A（4分）・相互評価（1分）
	15:05- 15:55	50	振り返り	講義 ピッチ（仮説）実施後の振り返りにより学びを得ること の重要性を説明 Zoom グループワーク Fact・Insight・Tryの3つの視点から振り返り Teams
	15:55- 16:30	35	行動計画	グループワーク 各人の行動計画作成・起業支援プログラムについて検索 2か月以内に取り組むことを宣言し、グループで共有 Teams
	16:30- 16:57	27	レポート	レポート提出・アンケート実施
	16:57- 17:00	3	まとめ	講義 Day1～Day3まで学んだ内容のまとめ Zoom

※授業のナビゲート補助機能として常に使用

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムに係るFDプログラム

- ✓ 事前・事後の講義と授業参観を通して、オンラインで行われた授業をオフライン環境で提供するための考え方やノウハウを身に着けるためにFDプログラムを実施した

FDプログラムについて

<p>今回のFDプログラムの目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国アントレ教育プログラムで実施した内容を、各教育機関でアレンジしながら展開できるようにすること
<p>FD 受講者（教職員）の受講後の到達地点（目標）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受講した教職員が、コースで提供する資料を用い、自身が所属する学校で2～3日の同プログラムを実践できるようになること
<p>FD 概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前・事後の講義と全国プログラムの授業見学を通じ、オンラインで行われた授業をオフライン環境で提供するための考え方やノウハウを身に着けるためのもの ■ 事前講義では、全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムコース2の設計意図を説明 ■ その上で、授業参観を通じ、実際の授業の様子を確認 ■ コース2終了後、事後講義として、授業実施の様子を振り返り、授業を行うための設計の練習を実施 ■ FD終了後、各教育機関において同講義を展開頂くための資料セットを提供
<p>担当講師</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京大学馬田先生、富田先生

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムに係るFDプログラム

- ✓ アントレプレナーシップの定義や考え方のレクチャーによる教職員の目線合わせの他、見学のポイントをレクチャーし、事後も参加者によるワークを行い、自学で展開できるようサポートをした

FDプログラムの内容

スケジュール	各日の実施概要
<p style="text-align: center;">事前講義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレプレナーシップの定義と全国プログラムの設計意図について解説 ■ 授業見学に備え、見学の観点や準備事項について説明 ■ 参加した教職員からアントレ教育に関する質問への回答
<p style="text-align: center;">授業参観 (全国プログラムの 見学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前講義を踏まえ、学生のグループワークに見学者として参加し、学生のディスカッション内容や、意思決定の様子を見学
<p style="text-align: center;">事後講義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムの振り返りとあわせて、実際に自身の学校で展開するための授業設計のトレーニングを個人及び参加教職員のグループで実施 ■ 参加した教職員からアントレ教育に関する質問への回答

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムに係るFDプログラム

- ✓ 教員間の交流やプログラム運営・設計に関する評価が良かった一方、授業の様子をスムーズに見学できるよう、オフライン形式での実施等、オンライン以外での実施方法も検討すべきと考える

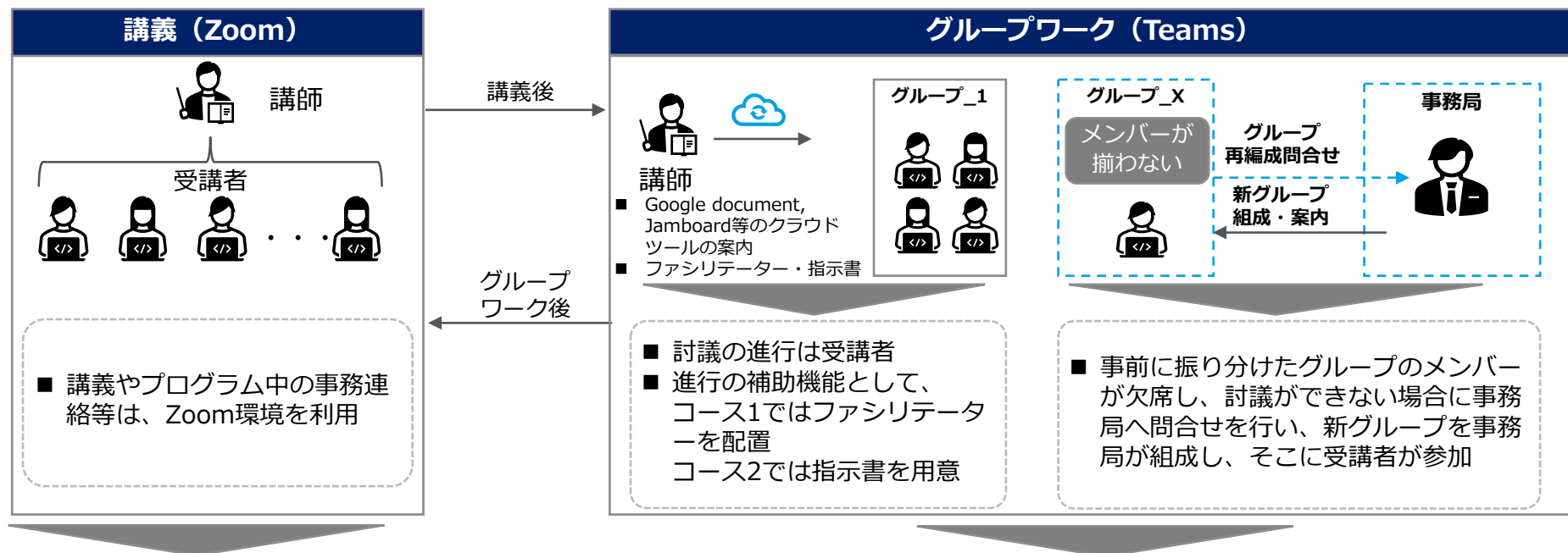
FDプログラムの実施結果

実施結果（教職員の主な意見の整理）		2023年度に向けた示唆	
評価点	教職員間交流の場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他の受講者からの考えやアイデアを聞くことができた ■ 他の教員の意見が聞けた 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ FDプログラムのような教職員間の学び・交流の場を提供しつつ、拠点都市や大学等の教職員コミュニティと接続し、全国プラットフォームの教職員コミュニティの活性化が必要と考える
	プログラム運営に関する知識の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期間でオンラインでの基本的な実施内容・メソッド・留意点を学べた ■ 事前準備の重要性など再確認することができ、また、どこまで教員が介入すべきかも参考になった 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムの教育面のみならず、運営面に関するノウハウ・マニュアルを提供し、各学校で展開する際の運営面のリソース不足の軽減が重要と考える
	教育設計に関する知識の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の授業設計方法がわかった ■ 短時間でスタートアップの体験ができる授業を見学でき、自校での授業展開イメージができた 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各学校で展開できるためのプログラムのパッケージを提供し、教育機会の拡大が重要と考える ■ 教育評価に関する教職員間の議論を深め、プログラムの質的向上が重要と考える
課題点	授業参観に関する接続の不備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業参観に参加することができなかった ■ グループワーク中の状況を覗くことができなかった 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ITトラブルにより授業参加できない事象が起こったため、参加者が多い地域におけるオフライン開催や各大学におけるハイブリッド開催を検討し、教職員による現場での参観、教育実践と活用が重要と考える

全国プログラムのオペレーション（全体）

- ✓ Zoomを講義ツール、Teamsをグループワークツールとして活用し、円滑な運営ができるよう当日だけでなく、事前準備段階から各種工夫を行った

事務局の運営体制



ポイント

- スムーズな進行のため、受講者の音声はミュート設定
- 質問事項等はチャット連絡とし、基本的には事務局で対応（講義の内容に関わり、全体への周知が必要だと判断した場合は、事務局から講師に連絡を行う）

- グループワークが盛り上がる・欠席者軽減として、プログラム開始前にグループを設定（学年・性別・アントレ教育の受講経験等を加味）し、開始数週間前からTeamsに案内し、交流機会の場を設定した
- グループが円滑に進むよう議論のフレーム提供や共同編集機会として、Google document, Jamboard等のクラウドツールを活用
- 複数グループの掛け持ちを前提にしたファシリテーターを用意し、定期的に担当グループを巡回し、議論の進行をフォローした（コース1）
- 議論の補助機能として議論ステップや議論内容をドキュメント化しガイドとして受講者に共有
- グループ再組成対応チームを整備し、迅速な対応できる体制を整えた

各コースにおける工夫ポイント

- ✓ プログラムの前後のオフィスアワー、グループワークメンバーの事前設定、ファシリテーターの設置、デジタルホワイトボードの活用等を通じ、プログラムを実施した

コース1の工夫ポイント



継続実施

検討しつつ
継続実施

継続検討



要見直し

取組テーマ	具体的な内容	目的	示唆
① コミュニケーション オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム実施前後に、オンライン形式で講師陣に対し学生（任意）が様々なテーマで質問・議論する場を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講師からの一方的な発信にならぬ様、学生とのコミュニケーションを充実させるため ■ 学生のプログラムに対するモチベーションの維持・向上のため 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続実施  ➢ 学生からキャリアや次の学習機会等に関する質問があり、学生にとって良い場となった
② チーム編成 グループワーク メンバーの 事前設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年・性別・アントレ教育受講経験を考慮し、グループワークのメンバー構成を予め設定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当日のグループワークで活発な議論ができるようにするため（学生のバックグラウンドや全体のバランスを考慮） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続検討  ➢ 当日欠席者が一定数発生し、当日にグループの再編成を実施 ➢ 欠席を減らす仕組みや当日のバランスのとれたチーム再編成方法の検討等が必要
③ 運営フォロー ファシリテーター の設置	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講師陣を中心に、グループワークを巡回 	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループワークを活発化させ、学びを最大化させるため 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続検討  ➢ 受講人数に応じ、ファシリテーターの数も必要 ➢ 指示書等の作成を通じ、人数に影響されない実施方法の検討が必要
④ ITツール デジタルホワイト ボードの利用	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループワークでの議論・アウトプットツールとしてGoogle Jamboardを活用 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 極力オフラインと大差ない環境づくり（受講者の使いやすさ・交流のしやすさ、講師陣の確認のしやすさ）のため 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討しつつ継続実施  ➢ グループ毎に使用URLが決まっているため、当日グループ組成含め振り分け等の予めの準備が必要 ➢ ユーザービリティ自体は問題なし
⑤ ITツール ツールセットアップ のフォロー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業で使用するTeamsの仕様方法についてドキュメントマニュアルに加え、動画マニュアルを用意、メールでの事前リマインドを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ スムーズな受講環境を整備するため 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2023年度見直しが必要  ➢ マニュアルを見ていない要因が最もであるが、それがなくても使えるようなツールの検討や事前フォローの仕組みを再検討する必要がある

各コースにおける工夫ポイント

- ✓ プログラムの前後のオフィスアワー、グループワークメンバーの事前設定、ファシリテーターの設置、デジタルホワイトボードの活用等を通じ、プログラムを実施した

コース2の工夫ポイント



継続実施

検討しつつ
継続実施

継続検討



要見直し

— 取組テーマ —

— 具体的な内容 —

— 目的 —

— 示唆 —

1

チーム編成

グループワーク メンバーの 事前設定

- 学年・性別・地域・アントレ教育受講経験を考慮し、グループワークのメンバー構成を予め設定

- プログラム後のコミュニティ活動に繋がるようにするために地域を条件にいった
- 当日のグループワークで活発な議論ができるようにするため（学生のバックグラウンドや全体のバランスを考慮）

継続検討

- 当日欠席者が一定数発生し、当日にグループの再編成を実施
- 欠席を減らす仕組みや当日のバランスのとれたチーム再編成方法の検討等が必要
- コミュニティに影響があったかは継続調査が必要

2

ガイドライン

ドキュメントによる 指示書の用意

- 各時間何をすれば良いのかがかかっている指示書を講師が用意

- 授業中の聞き逃しや理解不足等についてこれなくなることが無いようナビゲート機能として用意した

継続実施

- カリキュラムや進め方に関する質問が発生せず、スムーズに進行した

3

ITツール

クラウド共有 ファイルの利用

- グループワークでの議論・アウトプットツールとして Google documentを活用

- 極力オフラインと大差ない環境づくり（受講者の使いやすさ・交流のしやすさ、議論のしやすさ）のため

検討しつつ継続実施

- グループ毎に使用URLが決まっているため、当日グループ組成含め振り分け等の予めの準備が必要
- ユーザービリティ自体は問題なし

4

ITツール

ツールセット アップのフォロー

- 授業で使用するTeamsの仕様方法についてドキュメントマニュアルに加え、動画マニュアルを用意、メールでの事前リマインドを実施

- スムーズな受講環境を整備するため

2023年度見直しが必要

- マニュアルを見ていない要因が最もであるが、マニュアルがなくても使えるようなツールの検討や事前フォローの仕組みを再検討する必要がある

関係者のコミュニケーションチャンネルの全体像

- ✓ Microsoft Teamsを活用し、全国プログラム当日のコミュニケーションチャンネル及びプログラム受講前後の参加者間のコミュニケーションの機会づくりを行った

チームの利用・アクセス対象

全国プログラム 関係者の コミュニケーション チャンネル Microsoft Teams	受講者 アシスタント	教職員	民間 企業等	チーム名称	チームの意図・機能	学生 「コミュニケーション」
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	① 自由交流	受講生・教職員・民間企業等がプログラムの開始前後で自由に交流し、繋がりを構築することを意図したチャンネル。投稿する際のルールや自己紹介、イベント、本や動画を紹介する機能がある	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	② グループワーク	プログラムの受講生がグループ毎に分類されており、各グループ内での投稿ができるチャンネル。討議や資料の共有ができる教職員や民間企業等は見学ができる	
	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 再編成/問合せ /アナウンス	欠席者が多いグループの再編成を行うためのチャンネル。受講生からの問合せやグループの再編成に関する事務局からのアナウンスを確認できる	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	④ 発表チーム	割り振られたグループとは別に、他グループとの交流を目的に設定	
	アシスタントのみ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ アシスタント 情報交換	プログラム運営に協力頂くアシスタントメンバーと事務局との情報交換を意図したチャンネル。トラブルの相談や事務局からの連絡機能がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	⑥ 教職員ご意見交換	アントレ教育を教える教職員間の意見交換を促進することを意図したチャンネルであり、教職員間での意見交換や問合せ、事務局からの連絡機能がある	教職員 「コミュニケーション」
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦ FD (Faculty Development) プログラム	FDに特化したアントレ教育を教える教職員向けのチャンネルであり、問合せ機能や事務局からの連絡機能を有する	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	⑧ 民間企業等	本プログラムに興味のある民間企業の担当者に対して事務局からの情報発信を意図したチャンネルであり、各種の案内やアンケート等の依頼をする機能がある		

Teams上での対応①

- ✓ プログラム参加者同士による交流の活性化を図り、自由に情報交流・交換できる場を提供し、自己紹介、仲間募集、フリートーク等の交流が見られた

① チーム：「自由交流」について

チーム名	自由交流
対象	参加者全員（受講学生、教職員、民間企業）
チャンネルの主な機能	<p>以下をテーマにしたコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> • おすすめ本、動画などの紹介 • 仲間探し • 全体アナウンス • 自己紹介 • 雑談 等
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラムの前後での受講者間のコミュニケーションを円滑化や参加者全員の交流機会の提供 <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> • 利用にあたってのルールを展開すると同時に、参加者に積極的なコミュニケーションを促した • 「いいね！」等の機能を使い、投稿に対して返信することでコミュニティの活性化をはかった

学生による情報発信

● [募集] 2022/12/28 16:56
 ペットを飼っている方、私の考えるサービスのインタビューを受けてください！！

皆様、3日間お疲れ様でした。
 私は動物病院に勤務しております、獣医師の [] と申します。
 私は獣医療で動物の健康寿命を延ばすことをターゲットにサービスを展開しようと考えております。
 早速今回学びました、インタビューを実践したいと考えております。
 そのため、ペットを飼っている方、飼っていた方、飼おうと検討している方、インタビューをさせていただけませんか？
 いいよ、という方は是非ご返信お願いします！

👍 1

新着メッセージ 2件の返信
 ↩️ 返信

● [] 2022/12/28 16:36
 [] 先生と申します。起業とはズレた話になります。

私は「パワボカラオケ」※1という大喜利の1種が好きで、春ごろから「札幌でパワボカラオケのイベントを開きたい」という思いがあるのですがずっと足踏み状態※2になってしまっています。
 ※1: [] ※2: []

👍 2

新着メッセージ 2件の返信
 ↩️ 返信

● [] 2022/12/28 18:51
 [] 大学の [] です！子供の時から北海道に住んでいます
 趣味：サーフボード、スノーボード、映画鑑賞、美術館巡り、音楽（藤井風、中村佳穂、サカナクション、きのみ帝国、あと最近HIPHOP）

将来的に人々の様々な悩み（人間関係、お金、身体のこと）を和らげることができるアプリの開発を目指しています！（まだまだ初期段階...）本アプリは日本の自殺死亡率の低減に寄与できると考えています。
 今年の夏に東京大学が主催する大学ビジコン2022に出場し、本事業内容を発表しました。

Teams上での対応②

- ✓ グループ編成にあたっては性別、アントレ教育の受講歴の有無、学年、所属学校の地域（リアルなコミュニティ活性化を見越して）等を考慮し、プログラム開始前から交流できる環境を整えた

② チーム：「グループワーク」について

チーム名	グループワーク
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講学生 ・ 見学として教職員、民間企業等
チャンネルの主な機能	<p>プログラムにおけるグループワーク機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コース1 100部屋 ・ コース2 200部屋 <p>（いずれも一部屋5名）</p>
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ編成にあたって性別、アントレ教育の受講歴の有無、学年、所属学校の地域（リアルなコミュニティ活性化を見越して）等を考慮して組成した <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークの進行を確認するための巡回を行った

グループワークの様子

会議 (グループ_002) は終了しました: 49 分 7 秒
← 返信

"グループ_002" で会議中 は終了しました: 1 分 58 秒
← 返信

会議終了:1 時間 50 分
← 返信

ト) 2022/12/28 7:46
おはようございます

今日のお昼まで提出の課題の提出フォームが見当たらず
可能であればリンクを貼っていただけませんか 🙏

2 件の返信
← 返信

2022/12/28 12:22
ギリギリにすみません。もし、MVPを実際に行う際、文字起こした資料の納期はどのくらいに設定しますか？

3 件の返信
← 返信

事務局による巡回

事務局_ [redacted] 2022/12/26 14:52
事務局の [redacted] です。
[redacted]さんは、グループ_002ではなく、
【2022_コース2】再編成/問い合わせのチーム内にある再編成_02に移動をお願いします。

👍 1

事務局_ [redacted] 2022/12/26 15:13
事務局の [redacted] です。
こちらのグループは会議を始めていますでしょうか？

Teams上での対応③

- ✓ グループワークチームの再編や問合せなど、受講に関する不明点を解消し、当日の運営面に関する質問や意見等の情報を集約させる場を設け、多くの事務局スタッフを配員してタイムリーな対応を努めた

③ チーム：「再編成/問合せ/アナウンス」について

チーム名	再編成/問合せ/アナウンス
対象	受講学生、教職員
チャンネルの主な機能	<ul style="list-style-type: none"> • ワークに関する質問の受付 • 再編成・ツールに関する質問の受付 • 事務局及び講師によるアナウンス • 出欠席の連絡 • 再編成50部屋
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> • チームメンバー欠席により、グループワークができない場合の再組成の対応 • 授業内容やツールに関する質問、事務局及び講師からの一斉連絡等を実施した <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> • グループ再編成をスムーズに行うため、大人数同時編集可能な再編成用シートを利用した

動画配信のアナウンス

事務局 () 2022/12/28 21:07

【動画配信】馬田先生プログラム 1日目のプログラムのアーカイブ動画の限定配信
事務局及び講師よりアナウンス

皆様、こんにちは！

本事業の事務局を務めております () です。

12月26日(月)に開催しました馬田先生プログラム1日目の録画について、文部科学省YouTubeアカウントより限定配信しております！
※期間限定かつ限定配信となりますので、本プログラムを受講した方だけの閲覧をお願いいたします。

以下のリンクよりご視聴ください。

[2022.12.26 全国アントレプログラム_馬田講師_Day1 - YouTube](#)

ご確認よろしくお願いたします。

[簡易表示](#)

再編成の案内

運営事務局 1/7 10:43

【重要】再編成についてのご連絡

★再編成をご希望の方は「再編成の方はこちら」の会議にご参加ください

★会議に入室したら、再編成用シートのA列にご自身の受講者IDをご記入ください

★「グループ_〇〇」ではなく「再編成_〇〇」のチャンネルに入室してください

△「再編成を希望します」とコメントいただいても対応できません。必ず再編成シートにご記入ください。

[詳細表示](#)

再編成用シート_コース1.xlsx

2022_1515 >再編成・ツールの質問



Teams上での対応④

- ✓ コース2においては、グループワークとは別のメンバーへのプレゼン・交流機会の創出として別途チームを策定し、活発な交流を図れるようにした

④ チーム：「発表チーム」について

チーム名	再編成/問合せ/アナウンス
対象	受講学生、教職員
チャンネルの主な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ コース2におけるグループワークのアプトプットのプレゼンチャンネル ・ グループワークのチームとは別の人に対し、速やかに交流・発表できるようにするためにこのチャンネルを設定
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワーク以外のメンバーへのプレゼン・交流機会の創出 <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームの人数が少なくピッチできない場合は、再編成を実施した

発表及び質疑応答の様子

● (ゲスト) 2022/12/28 14:52
すみません！質問あとでご回答します！

🗨️ 会議終了:46分13秒 ●●●●●●●●

再編成27です！

● (ゲスト) 2022/12/28 15:01
Q. セールスは書記を行っている人を対象にしたのですか？
A. ご指摘ありがとうございます。書記を行う人をメイン顧客に考えております。私達は、「音声書き起こしのメモが追い付かない」と課題を捉えております。まずは書記を行う人をセールスの対象にしたいと考えております。アプリ自体が開発できれば、それ以外の課題を持つ人（大学講義の文字起こしなど）にもセールスを起こせるものと考えております。市場の計算は後者を踏まえて考えております。

● (ゲスト) 2022/12/28 15:06
ご返答ありがとうございます。市場規模には書記以外の用途に使用する方もふくまれていたのですね。

● (ゲスト) 2022/12/28 15:13
【市場規模】
①スマホを持つ人 → 書記以外の用途
②ホワイトカラー職(書記に課題がありそうな人)
③書記に関心がある人
こんな感じです！

🔍 簡易表示

● (ゲスト) 2022/12/28 15:17
なるほど分かりやすく助かります！ 私は②に書記に関心のある人をおき、③にそのなかで実際に利用する人 とおいてしまったので誤解してしまいました。。。 正しく理解できたように思います。ありがとうございます。

👍 1

● (ゲスト) 2022/12/28 14:54
ありがとうございました！私のピッチに対してご指摘などあればぜひいただきたいので、このチャンネルで送ってくださると幸いです！

📄 すべて折りたたむ

● (ゲスト) 2022/12/28 15:48
MVPが視覚的にとてもわかりやすかったです

● (ゲスト) 2022/12/28 17:09
貴重なご意見ありがとうございます！！

👍 1

Teams上での対応⑤

- ✓ グループワークを巡回するアシスタントメンバーが情報交換できる場を設け、各グループの様子・改善点の把握に努めた

⑤ チーム：「アシスタント情報交換」について

チーム名	アシスタント情報交換
対象	アシスタント、教職員
チャンネルの主な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ トラブルの相談 ・ 事務局からの連絡 ・ 振り返り・懸念事項の共有 等
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アシスタントメンバー間の情報共有、オペレーションに関するトラブル等を解決できるようにすること <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アシスタントメンバーへのマニュアルを用意し、巡回上のポイントを提示した ・ プログラム後は振り返りミーティングを設け、オペレーションの振り返りを実施した

マニュアルの提示

事務局 () スト) 2022/12/14 14:05

アシスタント学生向けマニュアル

事務局からのご連絡

皆様、こんにちは！事務局の です。

本オンラインプラットフォームのマニュアルを添付いたします。

プログラムに参加する上での各種操作、各チャンネルの利用方法などを記載しておりますので、プログラムに参加される前に必ずご一読ください～！

簡易表示



【2022】アシスタント学生用マニュアル.pdf



Teams上での対応⑥

- ✓ 広く教職員が意見交換できる場を設けた。2021年度は交流がほとんど見られなかったが2022年度はFDの取組の影響があり、教職員間の交流が見られた

⑥ チーム：「教職員ご意見交換」について

チーム名	教職員ご意見交換
対象	教職員
チャンネルの主な機能	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員からのお問合せ • 教職員間の情報交換 • 事務局からの連絡 等
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラムに参加した教職員が感想を発信したり、受講内容やグループワークに関する交流を行ったり、自由に意見交換を行えるようにすること <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> • 教職員用のマニュアルを提示し、スムーズな参加を促した

教職員による交流

██████ (ゲスト) 2022/12/28 17:09

3日間、馬田先生の講義を拝聴し、また、学生のグループワークの様子を拝見させていただきました。ゼミ活動にて、PBLによる課題発見・解決の取り組みを行い、その成果をさまざまな学生発表大会やビジコンで発表する、という取り組みをしているのですが、非常に示唆に富む学びを得ることができました。馬田先生ならびに運営された方々に深く感謝申し上げます。

[簡易表示](#)



2件の返信、送信者: ██████

██████ (ゲスト) 2022/12/26 13:50

チーム用ドキュメント一覧ですが、教員は自由に閲覧しても良いのでしょうか？

4件の返信

Teams上での対応⑦

- ✓ FDプログラムに参加している教職員に閉じたコミュニケーションの場を設定し、学びを踏まえた議論・情報交換の場を提供し、プログラム前後で活発な意見交換が見られた

⑦ チーム：「FDプログラム」について

チーム名	FD (Faculty Development) プログラム
対象	教職員
チャンネルの主な機能	<ul style="list-style-type: none"> • お問合せの対応 • 参加者間の情報交換 • 事務局からの連絡 等
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> • 全国プログラムのFDに参加した教職員間が自大学でのアントレ教育実施に向けた各種意見交換の場の設定 <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> • Teamsの利用マニュアルの提示、トピックの発信等を通じ、交流を促進させた

教職員による交流


■■■■ (ゲスト) 2022/12/28 20:12

FD プログラムの資料共有

事前講義・授業参観・事後講義の資料をサイトにまとめました。
<https://sites.google.com/view/■■■■/home>
 復習をされる場合はこちらからお願いします！

■■■■ さん、こちらでいかがでしょうか...？もし開けない場合お知らせください。

簡易表示

 1

▼ すべて折りたたむ

■■■■ (ゲスト) 2022/12/28 20:15

こちらは見れました。ご対応いただきありがとうございます。

■■■■ (ゲスト) 2022/12/28 20:15

よかったです！

 1

Teams上での対応⑧

- ✓ 全国プログラムに参加した民間企業等にも交流の場を設定したが、学生や教職員ほど、活発な意見交換は見られなかった

8 チーム：「民間企業等」について

チーム名	民間企業等
対象	民間企業の関係者
チャンネル機能	<ul style="list-style-type: none"> お問合せ 事務局からの連絡 等
意図	<p><作成意図></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国プログラムに参加した企業へのタイムリーな情報共有、企業による本取組における情報交換の場、各種問合せへの対応として設定 <p><事務局の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> Teamsの利用マニュアルやトピックの発信等を通じ、スムーズな参加・交流を促した

事務局からのアナウンス

事務局 () (ゲスト) 1/7 13:04

午後からの授業のライブ配信先

【共通】民間企業等

<https://youtu.be/eMCm9MDqOxU>

急遽ですが、AMのものとは変更になります。何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局 () /8 11:53 編集済み

【ご依頼】事後アンケートへの回答

聴講者各位（企業・団体の皆様）

この度は全国プログラムにご参加いただき誠にありがとうございます。

今後のアントレプレナーシップ人材育成を進めるうえで、皆様のご意見をいただき、文部科学省に政策提言するための参考にさせていただきますと幸いに存じます。

また、今後の関与方法や参画余地についてもお伺いできればと思っております。

事後アンケートURL： <https://forms.office.com/e/Y7CbBxv3gn>（5分程度）

締切：令和4年1月13日（金）まで

何卒、よろしくお願いいたします。

2021年度全国プログラムの主な課題を踏まえた2022年度の取組事項

- ✓ 2021年度の全国プログラムでの気づき課題を踏まえ、評価・フォローについて取り組んだ

2021年度の主な課題と2022年度の取組事項

視点		2021年度の気づき・課題
運営	学生等	
評価・フォロー	変化・継続学習	<p>■ 継続的な学習や活動・交流機会の提供が必要 プログラム終了後、Teams上でのコミュニケーションはあまり活発には行われなかった 学んだ後、次に続くような学習や活動・交流機会が無い</p>
		<p>■ プログラムの効果測定指標の整理・作成が必要 全国プログラムによる客観的な効果が不明確であった 各大学でも効果検証は途上段階であり、プログラムを通じ効果を想定できる指標の整理・作成が必要</p>

2021年度の課題と2022年度取組

取組の結果

考察・解釈

2021年度の課題を踏まえた2022年度の取組事項

- **アントレ教育に関連するイベント等の情報発信**
拠点都市・大学・民間企業・文部科学省等が関わるアントレ教育関連のイベントについて情報発信を行った
- **オンライン学生イベントの実施**
2022年度受講をした学生を対象にオンラインイベントを行い、学生の交流機会を創出した
- **教育効果指標の整理**
本事業全体の取組として、教育効果ワーキンググループを組成し教育効果指標の整理・検討を行った
- **効果検証（アンケート・インタビュー）の実施**
教育効果ワーキンググループで検討した項目を踏まえアンケートを設計・実施し、これに加え、パイロット調査として学生へのインタビューを実施した

2022年度の取組内容

- ✓ 案内したイベントへの学生の申込状況を精緻に把握できなかったものの、このような情報発信に対するニーズが非常に高く、来年度以降は発信に関する改善を行った上、継続的に実施していく

アントレ教育に関連するイベント等の情報発信

実施内容	拠点都市等で開催されるイベントの配信
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> 拠点都市、大学、民間企業等でアントレ教育に関わるイベントリストアップしテーマ毎に情報を集約して学生に発信した
今後に向けた考察	<ul style="list-style-type: none"> 学生の全国プログラムの申込みアンケートから、スタートアップ、SDGs・社会課題に関する情報発信のニーズが高く、これらの関心テーマを踏まえ、情報発信を行うことが重要である 情報発信をきっかけに学生がどれだけイベント等に参加・申込みを行ったのかを精緻に把握できるような仕組みの検討が必要である

Teams上での情報発信の様子（一部）

事務局 (ゲスト) 3/1 19:12
イベント紹介

事務局のです。開催間際ですが、イベント情報を追加させていただきます。ご興味のある方は是非ご参加ください。

■JAPAN INNOVATION DAY 2023 3/3 (金)
<https://jid-ascii.com/>
ASCIIが実施するオールジャンルでの先端テクノロジーや製品、ビジネスソリューションに関する展示交流・ビジネスイベント

■GTIE DEMO day FY2022 3/3 (金)
<https://gtie.jp/events/40046/>
GTIEが2022年5月に募集を開始し採択されたプロジェクトの最終発表

有限責任監査法人トーマツ
アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局

簡易表示

👍 2 🙌 1

■GTIEアントレ教育シンポジウム 3/22開催 3/16申込〆切
アントレ教育を受講した方による成果発表やステークホルダーからの講評等があり、良い刺激を得られる機会となると思います。ご興味のある方は是非ご参加ください。

<https://gtie.jp/news/40089/>

簡易表示

📄 GTIEアントレ教育シンポジウム.pdf ...

🙌 1

2022年度の取組内容

- ✓ 学生同士のインタラクティブな交流、学生による主体的な発信等が見られた。時間が足りないとの声が多いため、2023年度以降はより長時間のイベントを検討していく

オンライン学生イベントの実施

実施内容	プログラム終了後の学生同士の交流（キャリアや悩みをテーマとして設定）、情報発信コーナーの設置
------	--

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> • 3月29日（水）10:30-11:30に実施した • 定員50名に対して、45名の申込みがあり、21名の学生が参加した • 3回のグループワークを実施し、学生同士の交流の場を設けた • 学生による情報発信コーナーでは、3名の学生が自身の取組・活動について紹介した
------	--

今後に向けた考察	<ul style="list-style-type: none"> • プログラム受講後の近況報告、活動内容の共有、仲間探し等、学生による主体的な発信・交流は学生にとっての高評価事項だった • また今回は試験的に1時間での開催だったが、短いといった声もあり、2023年度以降は時間や開催回数を増やす等、イベントの改善を図る
----------	--

事務局による説明資料（一部）



本日のスケジュール	
【10:30～10:35】	オリエンテーション（事務局）
【10:35～10:48】	ワイガヤ①
【10:48～11:01】	ワイガヤ②
【10:01～11:14】	ワイガヤ③
【11:14～11:29】	参加者によるPRタイム
【11:29～11:30】	おわりに（事務局）

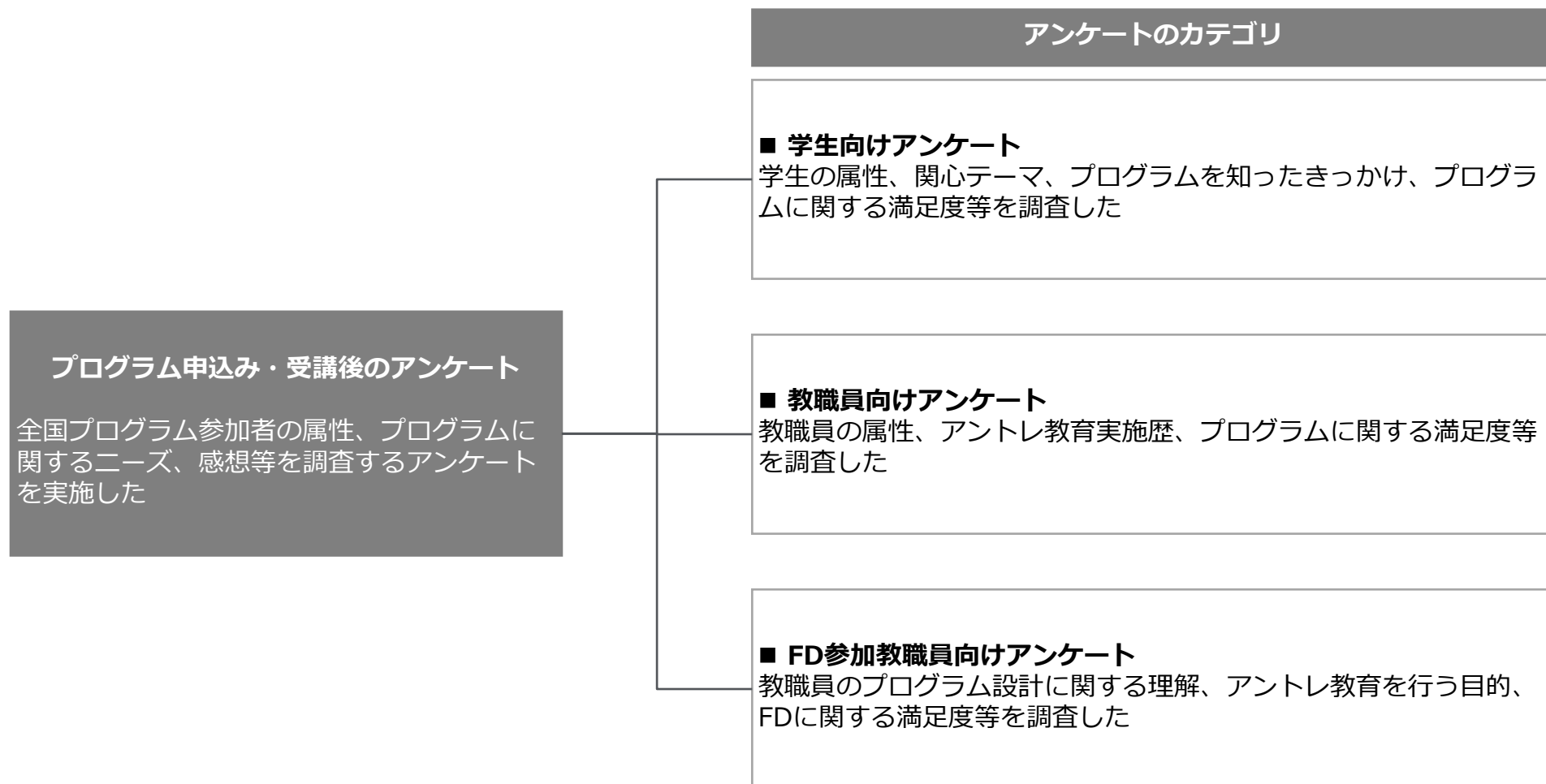
当日の様子（写真はモザイク加工）



全国プログラムに関するアンケート実施

- ✓ 全国プログラムの改善を目指すべく、受講者・関係者へのアンケートを実施し、満足度等を調査した。次ページ以降に詳細の結果を示している

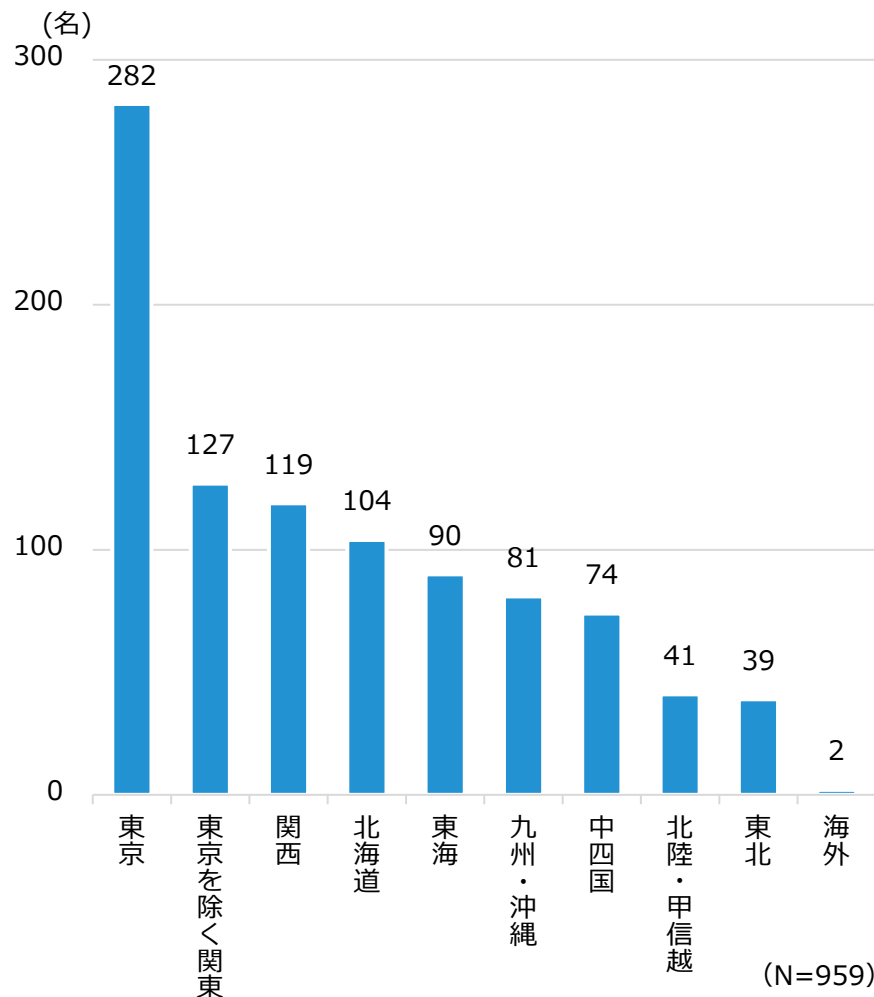
全国プログラムに関する受講者・関係者へのアンケート実施

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの申込者エリア

- ✓ 東京及びその他関東エリアからの申込みが多く、他のエリアについては、東北や北陸・甲信越を除き、ほぼ同じ割合で申込みがあった

申込者の所属学校の都道府県について



※東海：静岡県・愛知県・岐阜県・三重県 / 北陸・甲信越：山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県
 / 関西：大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

拠点都市毎の申込者数

拠点都市名	申込者数	申込者数上位3大学
GTIE (東京圏)	165名	①東京大学 30名 ②お茶の水女子大学 21名 ③千葉大学 20名
KSAC (京阪神)	59名	①関西学院大学 15名 ②関西大学 9名 ③龍谷大学 8名
Tongali (東海)	62名	①中京大学 21名 ②名古屋大学、名城大学、名古屋市立大学、愛知県立大学 5名 (同一順位)
PARKS (九州沖縄)	45名	①熊本大学 19名 ②九州工業大学、長崎大学、第一薬科大学 4名 (同一順位)
MASP (東北)	31名	①東北大学 11名 ②宮城大学 4名 ③新潟大学 7名
HSFC (北海道)	103名	①北海道大学 68名 ②室蘭工業大学 12名 ③小樽商科大学 8名
PSI (中四国)	41名	①岡山大学 14名 ②広島大学 11名 ③愛媛大学 6名
その他	453名	①明治大学 29名 ②青山学院大学 26名 ③創価大学 24名

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの申込者志望動機

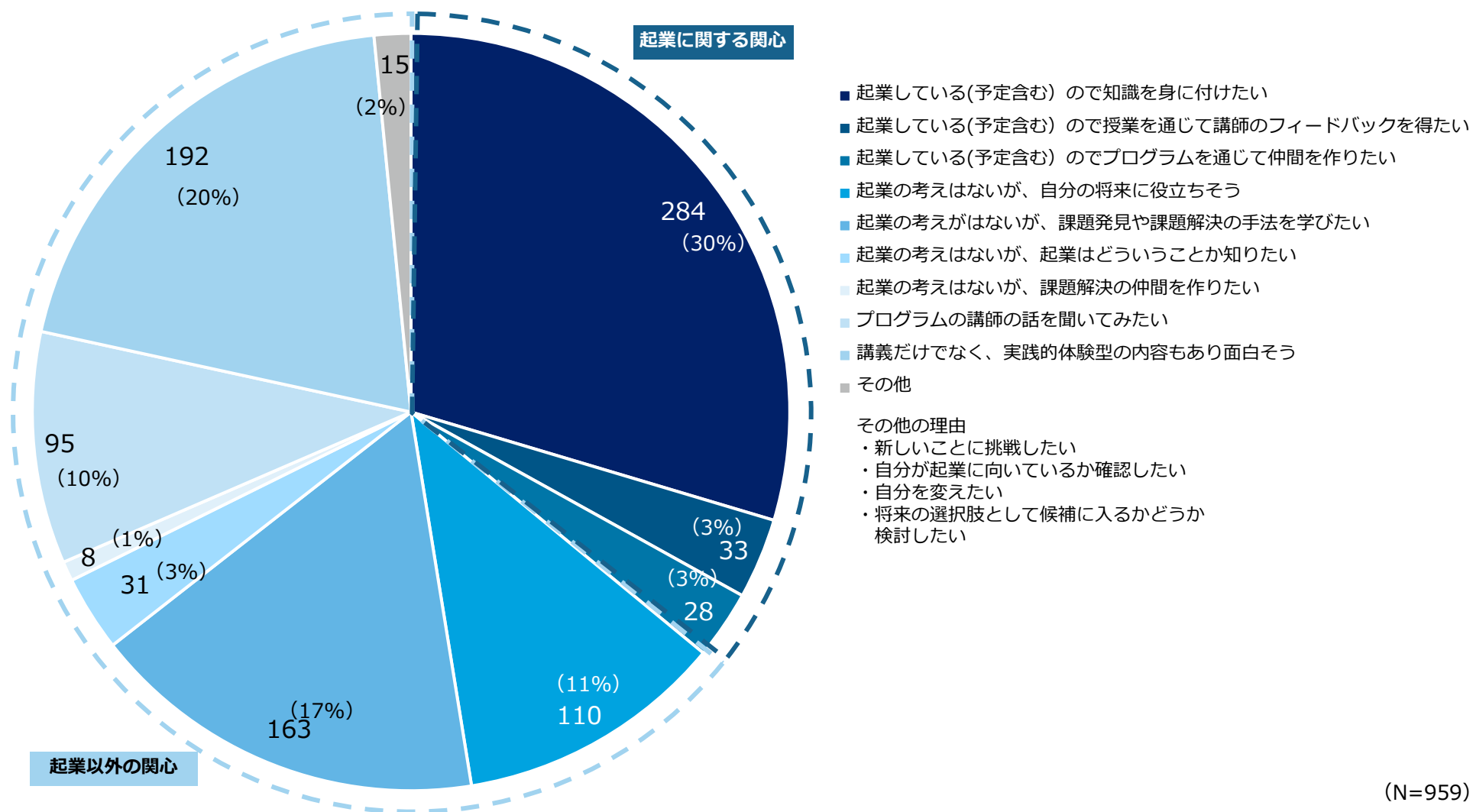
✓ 起業への関心を持っている受講者は全体の約35%程度であり、起業の考えが無い受講者は全体の約65%であった

申込者がプログラムを志望した理由について

学生アンケート

教職員アンケート

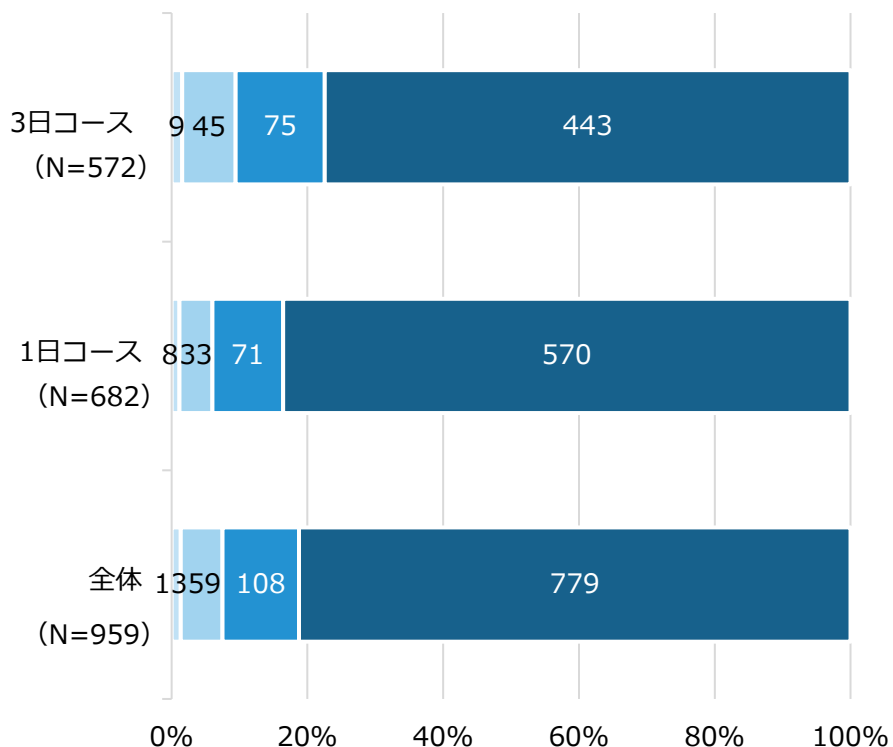
FD教職員アンケート



全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの申込者アントレ教育受講歴

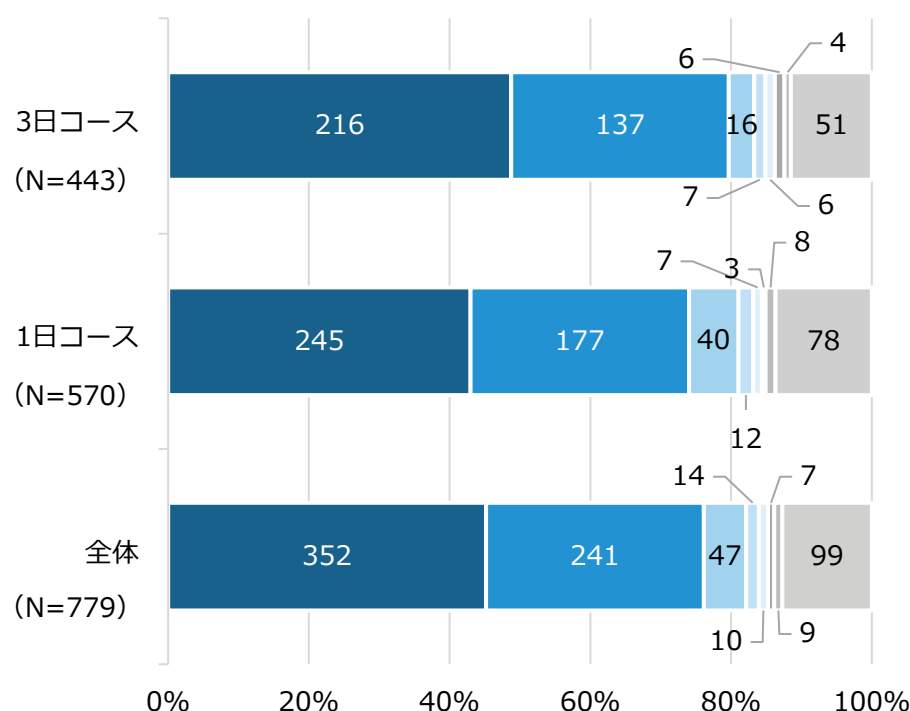
- ✓ 申込者の内、約8割はアントレ教育を受講したことが無い学生であり、その理由としては、自分に無縁であると考えていたという回答が4割と最も多く、次いで自分の学校でアントレ教育を実施していないことが挙げられる

申込者のアントレ教育の受講経験の有無について



- 昨年度の全国プログラムを受講したことがある
- 自分が通っている学校ではないが、他で開講するものを受講したことがある
- 自分が通っている学校で受けたことがある
- いずれも受講したことがない

アントレ教育を受講したことが無い理由について



- これまではアントレ教育は自分には無縁のものであると考えていたため
- 自分の学校でアントレ教育を実施していないため
- アントレ教育の存在自体を知らなかったため
- 本プログラムの存在を知らなかったから
- 昨年度の全国プログラムに応募したが、当選しなかったため
- 日程が合わなかったため
- アントレ教育を受ける機会に恵まれなかったため
- その他

プログラム満足度

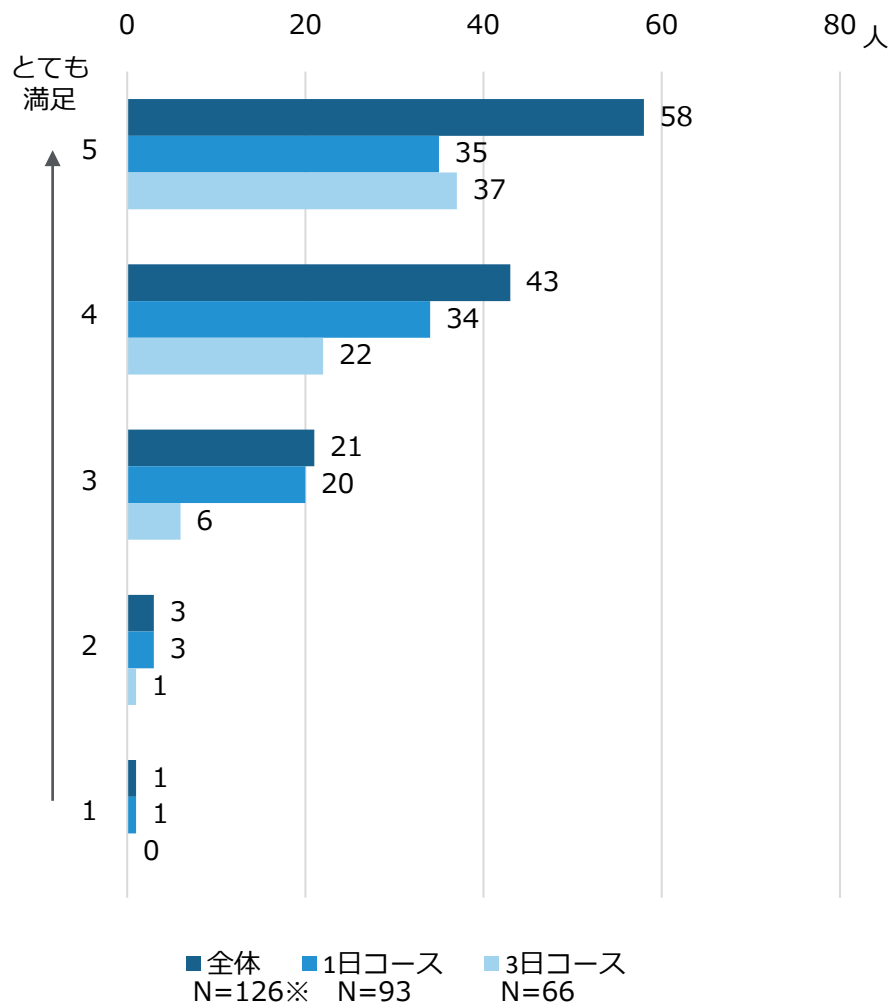
✓ 全体の8割が満足をしている傾向にあり、他学生との交流や繋がり、普段得られない学びに関するコメントが見られた

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

プログラムの満足度について



※ アンケート回答者の実人数

左記満足度を選んだ理由 (まとめ)

満足度4-5

- 意識の高い友ができた
- 他大学で似た志や課題を持つ仲間と知り合うことができた
- 起業家仲間と起業家コミュニティを作るための仲間ができた
- グループワークを通して他の大学の学生と関わることができて新鮮であった
- 他大学の学生と交流して、アイデアを共有できた
- 起業に向けて何をすべきかがわかった。
- これほどのリターンを得られる授業は今までになかった。座学中心でなかった点が良かった。
- 講義での知識をアウトプットする時間（グループワーク）が設けられていた点が良かった
- 知らない分野について知ることができた。
- 自分のことを客観的に見ることで、新たな気づきを得られた
- 自身の強みが理解できた 等

交流・
繋がり

満足度1-3

- すぐに理解することが難しい
- 講義・ワーク以外の部分で慌ただしくなってしまう、じっくり取り組めなかった
- 2種類の配信ツールに慣れていない人が多かった
- 1日や3日などの短期間で身に着く能力ではない。短期間でどうにかしようという考えは浅はかだと感じた 等

プログラムの良かった点

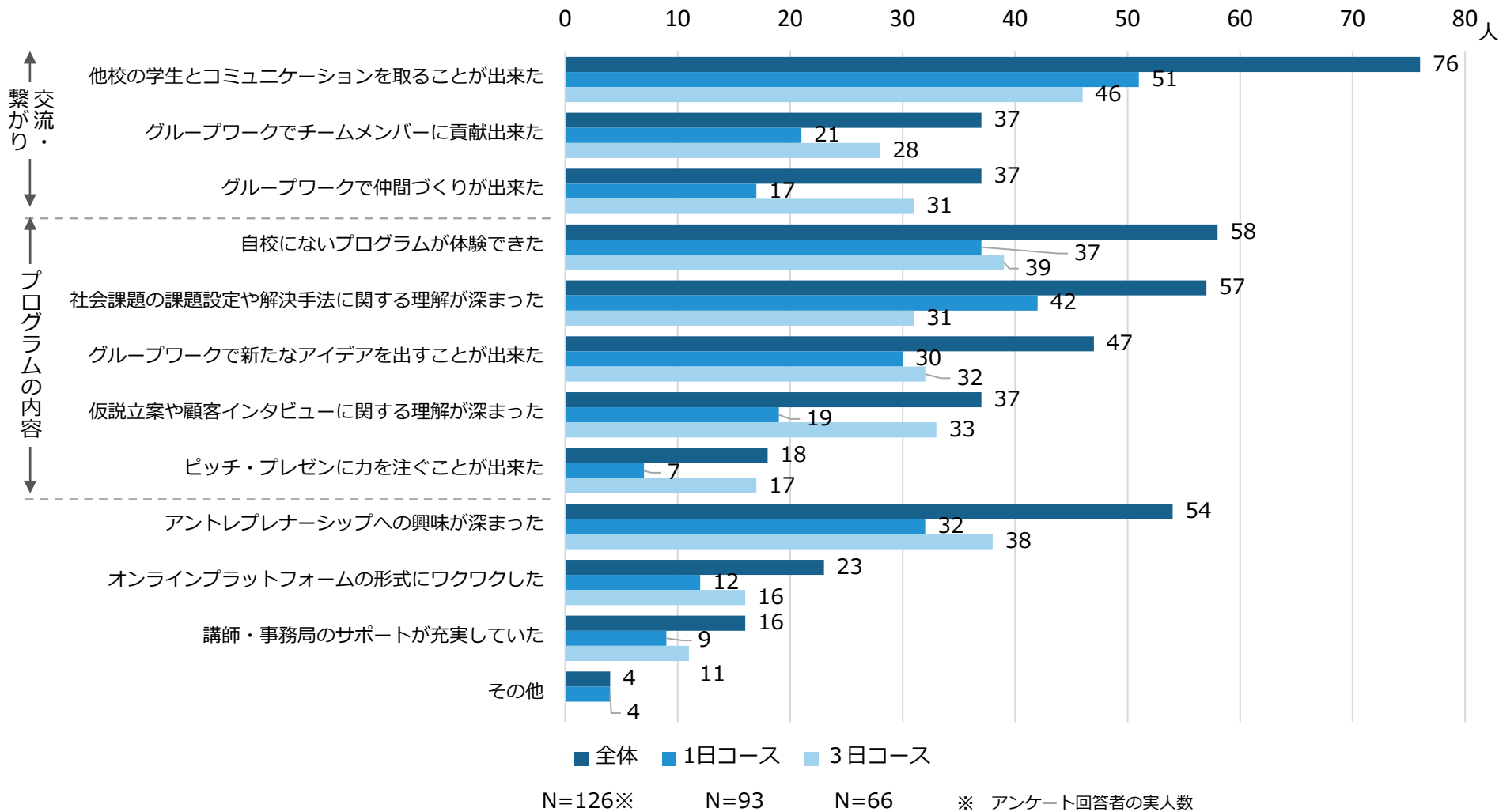
✓ プログラムの良かった点として、他学生との交流面の他、自学に無いプログラムであったこと、手法面に関する点が見られた

本プログラムの良かった点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

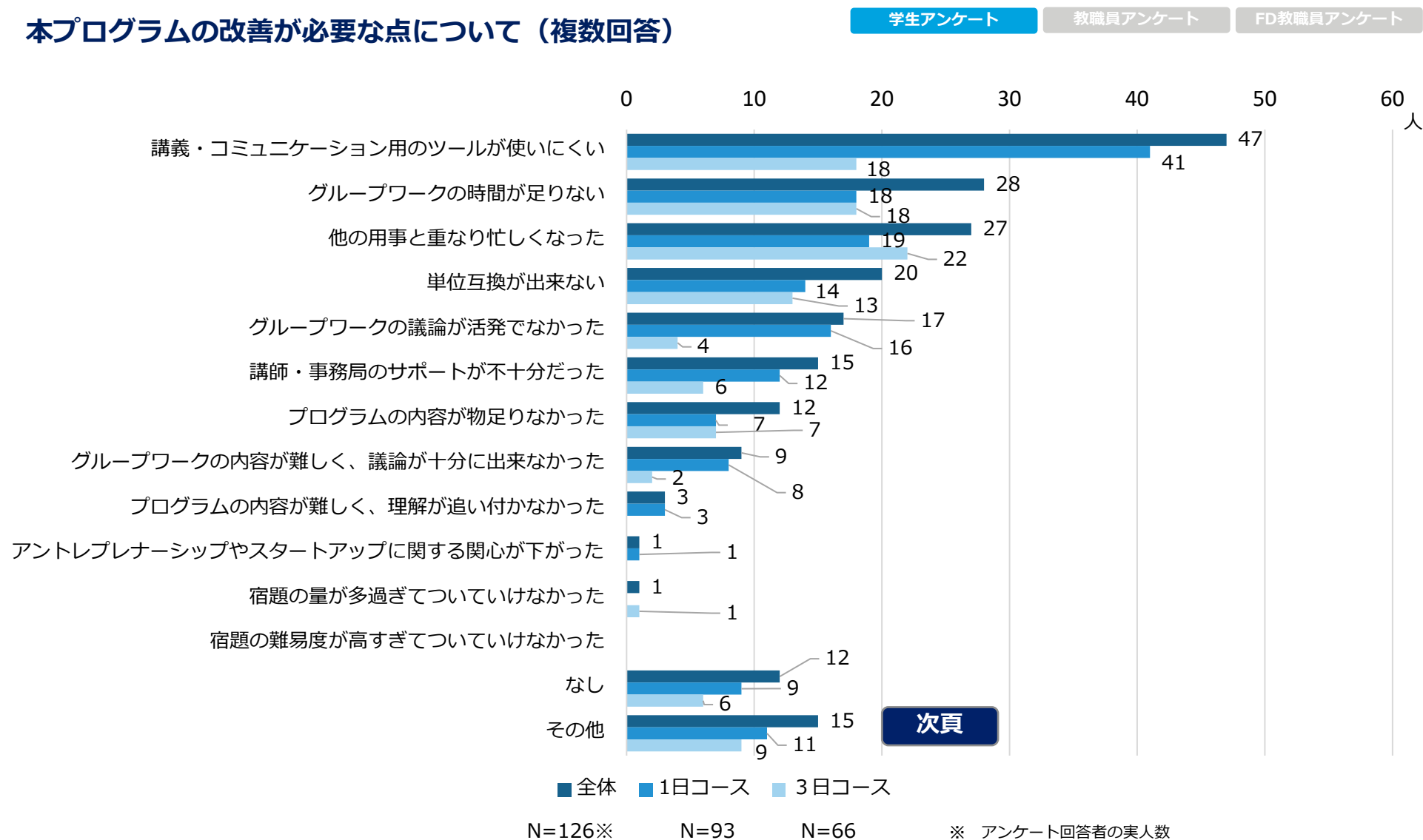
FD教職員アンケート



プログラムの改善が必要な点

✓ プログラムの改善が必要な点について、ツールの使いにくさやグループワーク時間の不足を挙げる回答が多かった

本プログラムの改善が必要な点について（複数回答）



プログラムの改善が必要な点

- ✓ プログラムの改善が必要な点について、チーム編成や開催時期、他の予定との調整、参加者のスキルや意識の違いに言及する回答があった

改善が必要な点について（複数回答）その他の回答まとめ

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

チーム編成や 取組

- チームの再編成が何度も行われ、複雑であった
- 途中で脱落する人が多くいる印象がある
- 急遽休みになる参加者がいて悲しかった
- 仲良くなるのに時間を要した
- 自分に勇気が出ず普遍的なアイデアを発表してしまった 等

他の予定との 兼ね合い

- 年末で学校が冬休みに入ったこともあり、インタビューができる人数が限られてしまった
- 大学の授業とアルバイトがあり、発表の準備が十分できなかった
- 他の予定や他の受講者との交流もあり、宿題やインタビューの準備に割ける時間が不十分であった
- 社会人学生のため翌日までの宿題をこなすのが大変であった
- 大学の講義と被っていたので、配慮をして頂きたかった 等

参加者の スキル・ 動機

- グループワークの質が低かった
- グループワークに参加する学生の積極性に大きな差があった
- 他のグループとの交流を通して、自チームの進捗状況を把握できればより良いものになった
- 学生側のスキルのなさが散見された 等

今後取り組みたい活動について

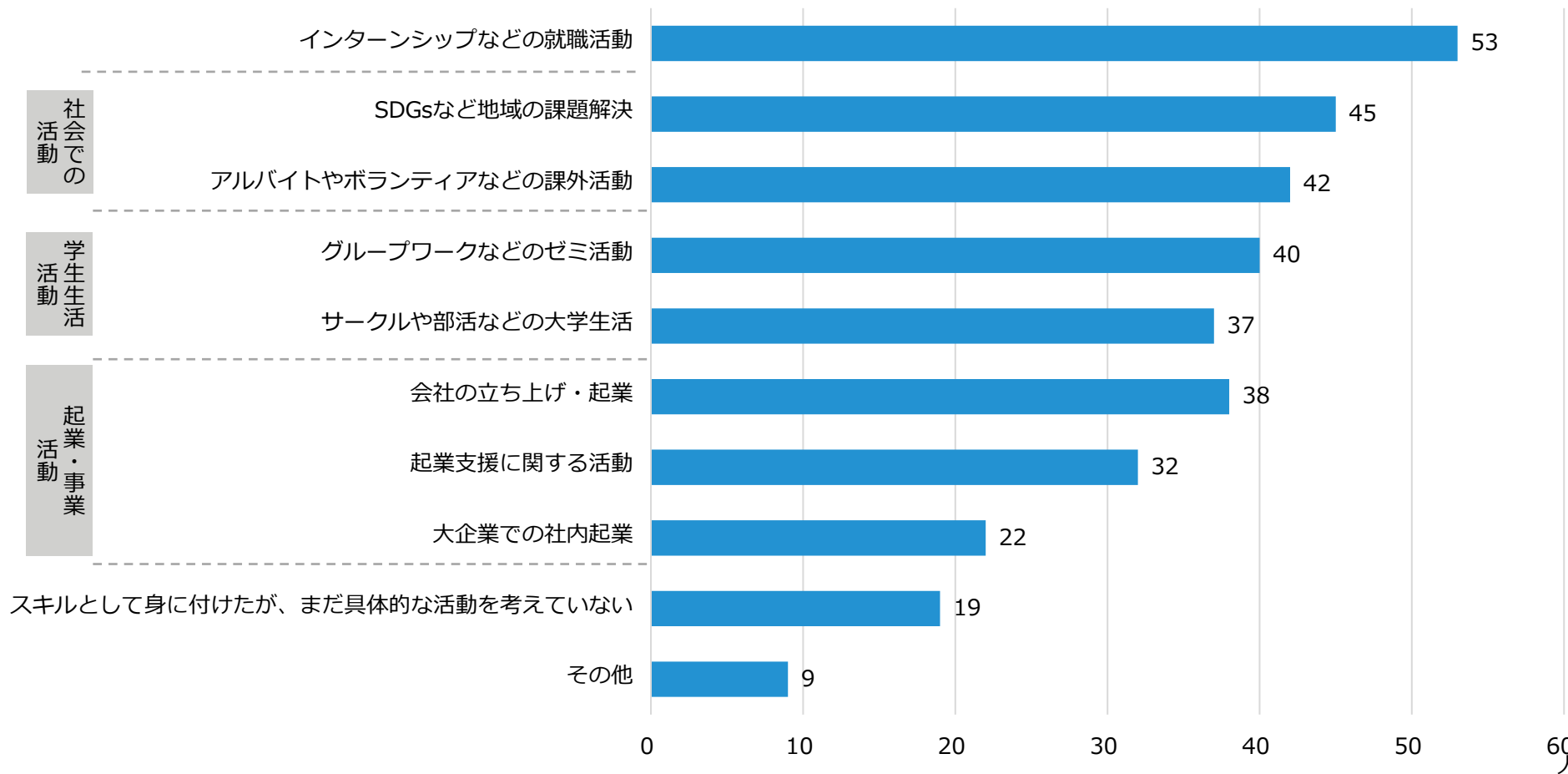
- ✓ 最も割合が多かったのは、インターンシップなどの就職活動に組みたいとの回答であり、その他社会での活動、学校生活での活動が割合として多かった。また、起業に関する回答も一定数あった

アントレ教育で学んだ知識を生かし、 今後取り組みたい活動について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



(N=126)

望ましい開催時期・時間

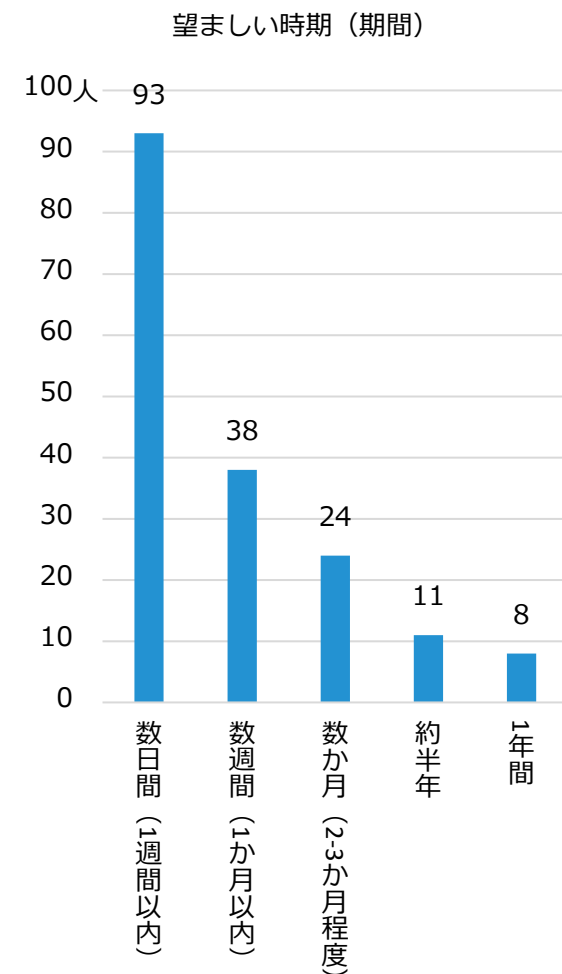
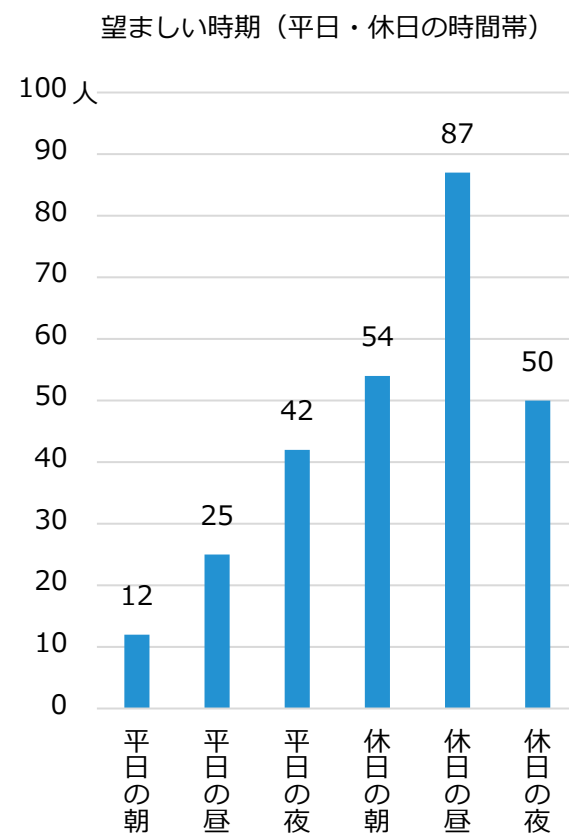
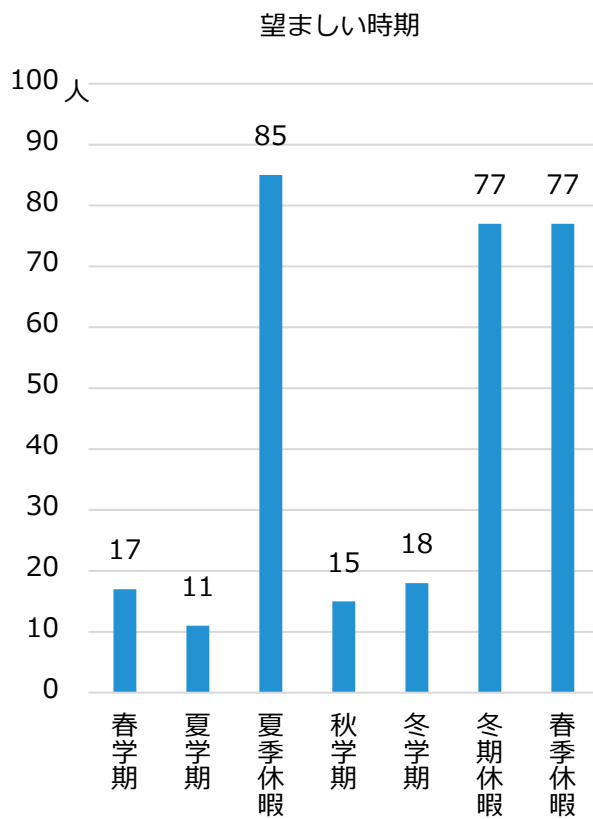
✓ 時期は夏季、冬季、春季含め休暇中、時間帯は休日の昼間、期間は数日間が望ましいとの回答が多かった

望ましい開催時期・時間について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



(N=126)

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム 座談会の実施

- ✓ 地域単位でのコミュニティ形成や、オフラインでのイベントの開催を望む意見が多く挙げられた
- ✓ 民間企業でのスタートアップ立ち上げや自治体での地域課題解決等に実際に携わる機会を望む意見も多く挙げられた

学生向け座談会※での主な意見

プログラムに関するご意見

利用ツール

- Teamsは使いづらかった。Slackでも良かったのではないかと
- コミュニティを形成するためのツールとしてはLINEが良いのではないかと

学生コミュニティ・PF構築に関するご意見

地域でのコミュニティ

- 友人と参加できるようにすれば参加者数が増えると感じた
- オフラインのイベントや地域毎のイベントもあれば参加する人も増えると感じた
- 都道府県単位等の地域毎のコミュニティが形成できると良い
- 地方でビジコン等を開催し、勝ち残った人が東京の本会場で決勝を戦うという仕組みも面白い など

コミュニティの形成

- 自己紹介のページで交流が促進された点は良かった
- コミュニティでは顔が見えないという点で警戒した
- PFにおいて実際に数人の仲間を作ることができた
- オンラインのPFだったからこそ多くの方が参加できたと感じる
- 対面でも話したいので、オフラインでの開催も希望する
- プログラムは少人数のグループ制だったのでコミュニケーションがとりやすかった
- 月に1回程度の頻度で集まると関係が深まると感じる など

実践的な機会との接続に関するご意見

民間企業との連携

- インターンシップ等を通じてスタートアップの立ち上げ等に実際に携われる機会があると良い
- 企業のインターンシップに参加しやすくなる等、参加へのインセンティブがあると良い
- 地元の中小企業の経営者等に参加して欲しい など

地域との連携

- 実際に学生が地域の課題解決に取り組む機会が欲しい
- 自治体版のインターンシップのようなものを開催し、自治体と連携して地域課題の解決に取り組める機会があると良い
- 地方創成や飲食店の開業等であればスタートアップ支援のベンチャーキャピタルよりも地方銀行と連携する方が相性が良い。地方銀行から見てどういった対象が支援しやすいかといったコミュニケーションも取れると良い など

専門家との連携

- 起業にあたり、金融等のマネジメント面も含め何をどのような順番で学べば良いかがわかるプログラムがあると良い
- 同世代の起業家や「自ら考え、行動に移している人」のロールモデルのような人の話を聞けると刺激になる
- ビジネスプランの壁打ちができる機会があると良い など

※ 座談会実施日（参加者数）：2023年1月20日（4名）・25日（5名）・27日（6名）

当プログラムの満足度について（教職員参加者より）

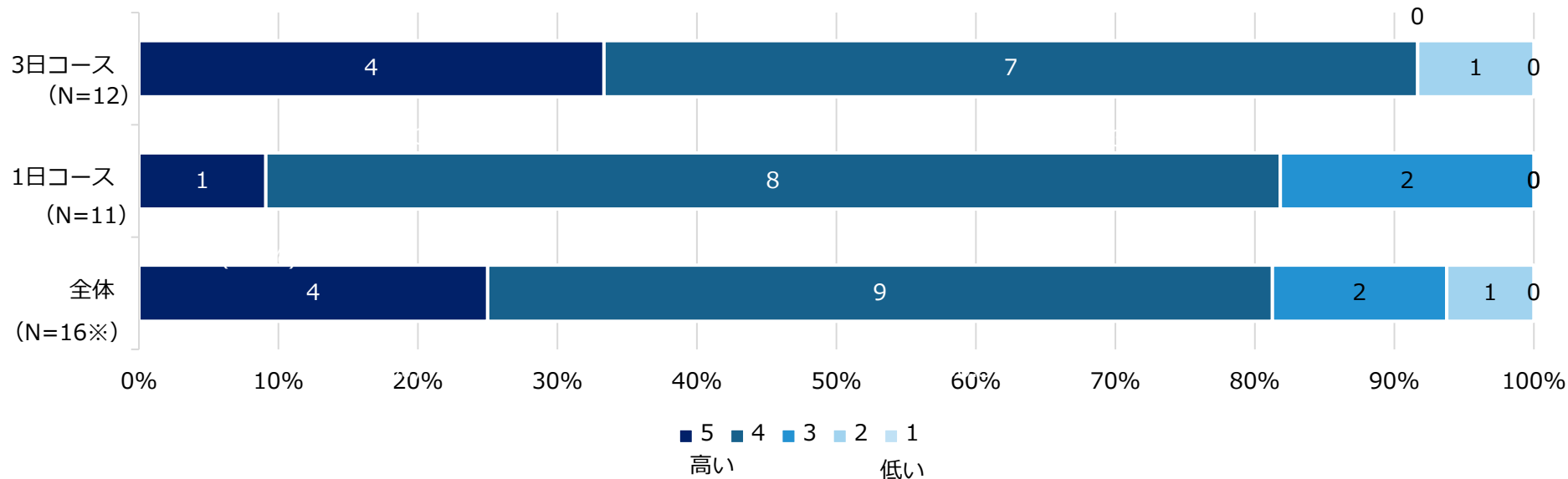
- ✓ 全体を通して、回答者の8割が4以上を回答した
- ✓ 4以上の回答者の理由で最多の意見はアントレ教育に関する理解が深まったという理由だった

当プログラムの満足度について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



回答の理由

- ✓ 満足度：5
 - ✓ 仮説立案や顧客インタビューに関する理解が深まったため 2人
 - ✓ 課題解決の手法に関する理解が深まったため 1人
 - ✓ アントレ教育に関する理解が深まったため 1人
- ✓ 満足度：4
 - ✓ アントレ教育に関する理解が深まったため 6人
 - ✓ 課題解決の手法に関する理解が深まったため 3人
- ✓ 満足度：3
 - ✓ アントレ教育に関する理解が深まったため 1人
 - ✓ 普段の授業と異なる講義であったため 1人
- ✓ 満足度：2
 - ✓ 既存のアイデアを用いたことで学生への負荷が低すぎると感じたから 1人

※ 両コース受講した回答者から重複を削除して算出した人数

プログラムを通じて良かった点（教職員参加者より）

- ✓ 回答者の半数以上が課題設定や解決手法、仮説立案、顧客インタビューに関する教育手法が参考になったと回答していた
- ✓ 全国から様々な学生が集まっているという意見も多かった

プログラムを通じて良かった点について（複数回答）

学生アンケート

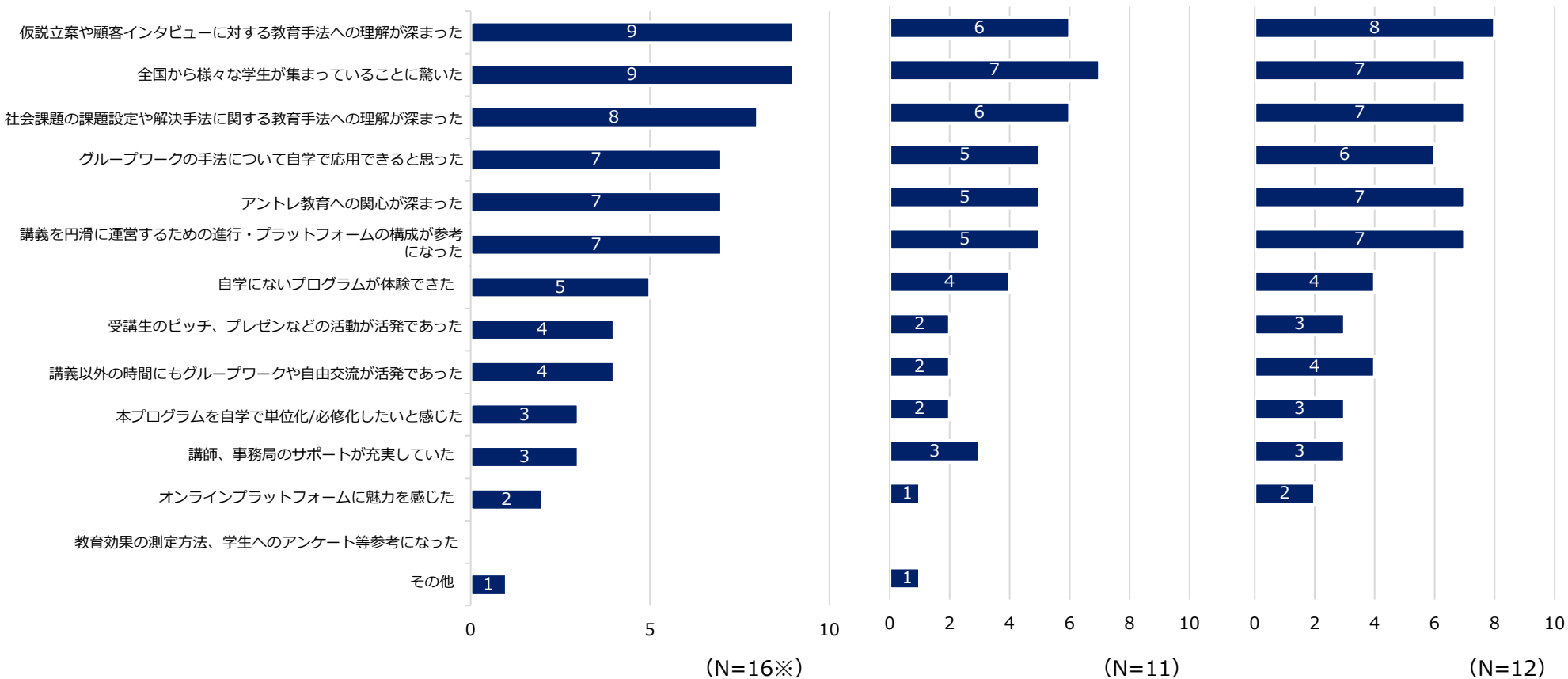
教職員アンケート

FD教職員アンケート

全体

1日コース

3日コース



※ 両コース受講した回答者から重複を削除して算出した人数

プログラムを通じて改善が必要な点（教職員参加者より）

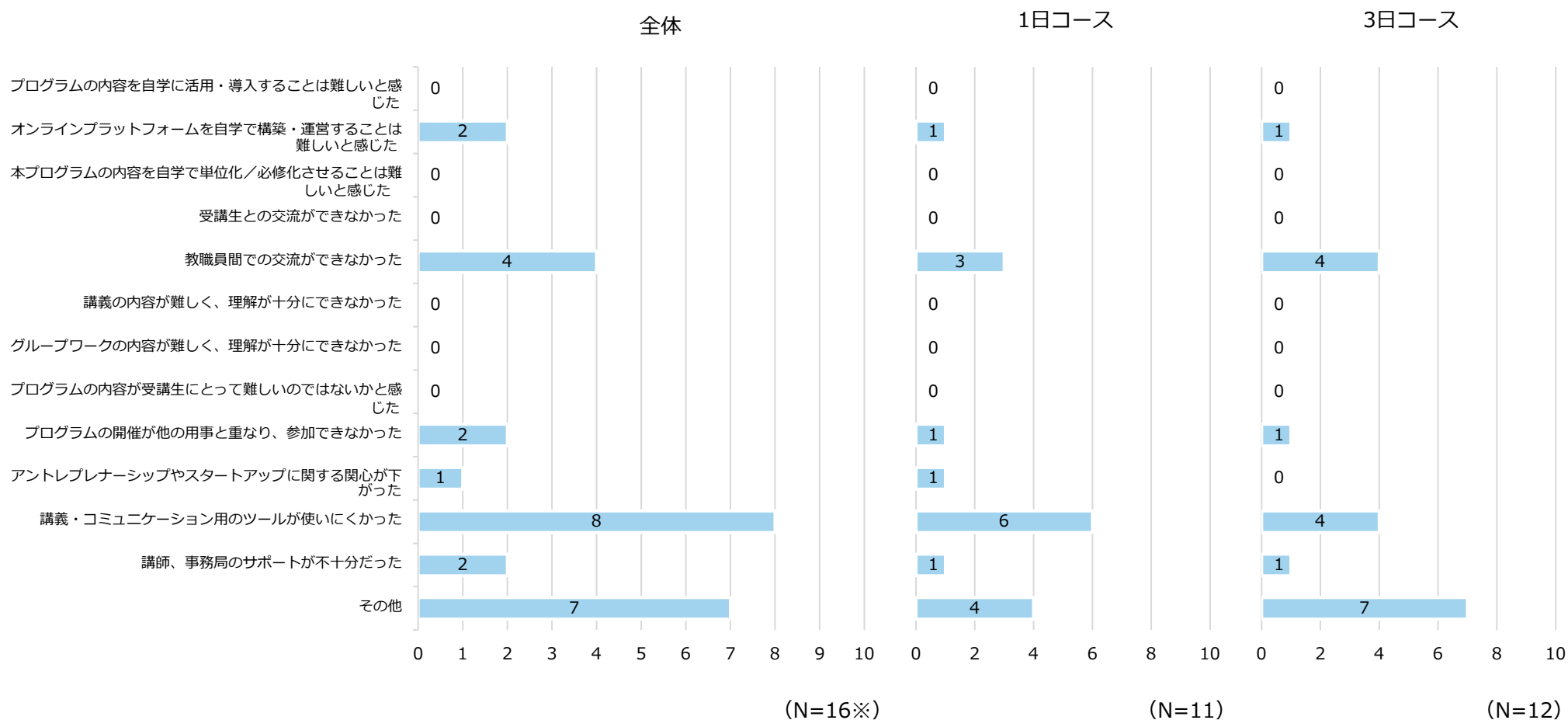
- ✓ 1日コースでは回答者の半数以上がツールの使いづらさを指摘していた
- ✓ 次に多かった意見は教職員間の交流ができなかったというものであった

プログラムを通じて改善が必要な点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



その他の回答

- ✓ グループワークの質がグループ毎に異なっていた
- ✓ 学生への負荷が低い
- ✓ 接続に苦労した
- ✓ 特になし

※ 両コース受講した回答者から重複を削除して算出した人数

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム 教職員座談会の実施

- ✓ 適切なグルーピング、ファシリテーターの配置、先生と学生の交流の実施等、議論活性化のための意見が多く挙げられた
- ✓ 就職活動に役立つ、あるいは純粋に楽しい機会にするといった、学生の参加意欲を高めるための工夫の必要性も議論された

教職員向け座談会※での主な意見

※ 座談会実施日（参加者数）：2023年2月1日（7名）

FDプログラムのあり方に関するご意見

FDプログラムに必要なこと

- 教える側が学生の目線になってどのような体験やマインドセットが必要かを検討させる
- フレームワーク等のやり方だけではなくマインドセット等の考え方を身に付けさせる
- 新しいことに挑戦する勇気、自信を身につけさせる など

プログラムの評価

- パッケージで授業のやり方が分かるという点が良かった
- Teamsの操作性が良くなかった
- 学生のニーズに応じた様々なメニューが提供されると良い
- 学生同士での関係構築が上手く行っていないグループがあったので、学生のニーズを加味したグルーピングを行えばより良い形で関係構築ができたかもしれない
- グループ毎にファシリテーター等がいると良い
- 先生と学生のインターアクションがあるとより良い
- 教員が様々なフレームワークを覚えた上でどのような授業を展開するかを考える力がアントレ講座において重要 など

アントレ教育の情報の活用

- 効果検証の方法がわからないのは教職員に共通する課題
- 効果検証自体は全体で行い、ノウハウをシェアできれば共同活動としても学術研究としても良い など

学生・教職員コミュニティ・PFの構築に関するご意見

コミュニティPFに関する感想

- TeamsよりSlackの方が良い
- 学生にとって参加するメリットの有無は重要なので、就職活動に役立つ等のメリットが提示できると良い
- 全国大会化すれば教員も学生もやる気になると思う
- 起業して成功した人だけでなく、映画監督等に登壇してもらい、そうなるためにどんなことをしてきたかを話してもらえれば学生もより興味を持ってくれるのではないか
- ピッチ等で優秀な評価を得た学生にインターンさせてあげる等、学生に実体験の機会を提供することは重要 など

実践的な機会との接続に関するご意見

起業にあたって必要な支援

- 銀行口座の開設や年金の手続き等のマネジメント面について学ぶ機会があると良い。このような観点から、地方銀行等がコミュニティに参画してくれると良い
- アイデアコンテストの審査で優秀な評価を得た学生でも、起業する気持ちが無いケースは多い
- 手触り感のある課題を出してもらい、それに対して学生がアイデアを発表し、その良し悪しをフィードバックしてもらえると学生は喜ぶと思う
- 学生のモチベーションとして楽しいかどうかは重要な指標。そのような視点も持ちつつ、広義のアントレプレナーシップとして学生のチャレンジする機会を提供して欲しい など

FDプログラムで学びたいこと・得たいこと

✓ アントレプレナーシップを導入する上で必要なノウハウや方法などに関する意見が多く見られた

FDプログラムで何を学びたい・得たいかについて

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

主なコメント

アントレの 基礎理論	<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育の実践基礎知識を学びたい。将来、アントレ教育を本学で実践することが現実的かどうかの判断材料を得たい • 全学的なアントレ教育導入を目指し、体系的なアントレ教育プログラムを学びたい • そもそもアントレプレナーシップとは何なのか、どう進めていけば学生は身に付けることができるのかということを知りたい
アントレの 教育手法	<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育プログラムを設計・運営する知識 • アントレ教育の授業設計のノウハウ、社会課題の選定のコツ（具体的にどういう課題を取れ上げることがアントレ教育として有効なのか） • 特に、仮説設定力と仮説検証力について、学びたい
アントレの コンテンツ設計	<ul style="list-style-type: none"> • 効果的な教育コンテンツ • これから開発する教材内容 • 具体的な学習コンテンツ
既存分野との融合	<ul style="list-style-type: none"> • 工学教育への組み込みのヒントを見つけたい • 看護学の分野において学んだことをどのように発展していくかを知りたいです • 現在計画している生活習慣病予防教育（授業）へ応用できるものがあるか学びたい
他大学教職員との 交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育に既に取り組んでいる大学における実施方法（正課or課外講座、特定の学部学科or全学、教員or事務職員、単発or連続、講演orゼミ形式、時間内or夜・土日） • 教員間の人脈 • 優れたアントレ教育の例を学びたい。それらを取り入れたい

FDプログラムの満足度

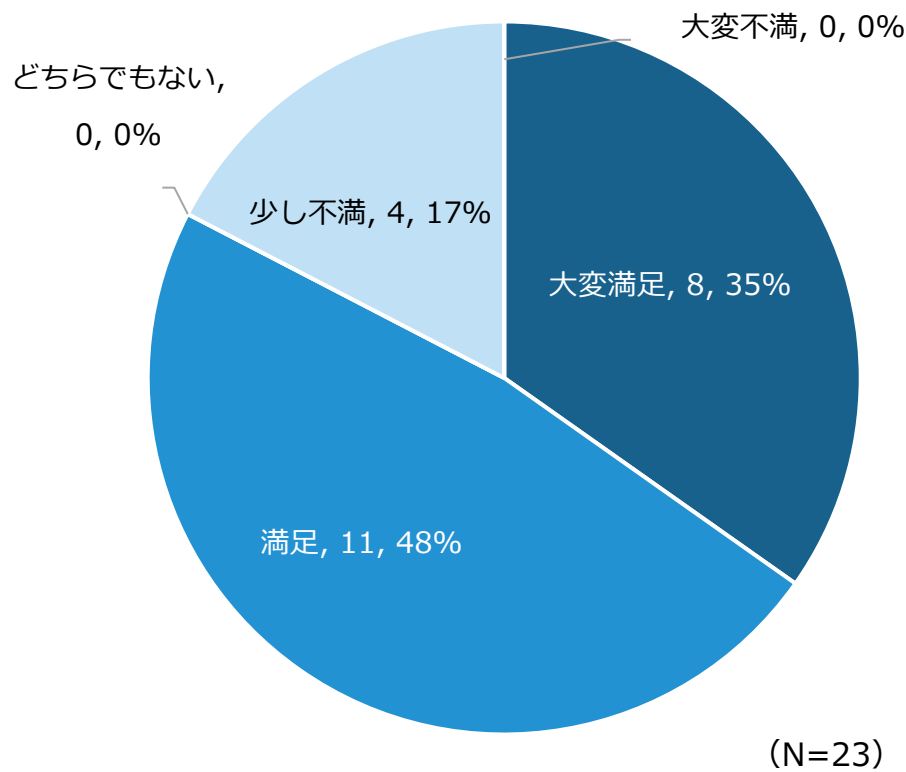
✓ 満足したとの回答が8割を超えた一方、スケジュールやツールに関する不満の声も見られた

FDに関する満足度について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



Nは回答者数

大変満足

- 事前準備の重要性など再確認でき、どこまで教員が介入すべきかも参考になった
- 短期間でオンラインでの基本的な実施内容・メソッド・留意点を学べたから
- 自校での授業展開イメージができた

満足

- 多くの最新の手法とコンテンツを学ぶことができました。また、作業によって、自身の頭の整頓もされました
- どのチームがどのテーマを選択したか、どのチームがNoGoになったか、が一覧で見られる仕組みだともっと使い勝手が良くなる

少し不満

- 少しタイトスケジュールだった
- Teamsの接続がうまくいかず参観が十分できず残念でした。事前授業ではslidoの練習などあったのにTeamsに関しては何もなかったのはなぜでしょうか？

自学でアントレ教育を実施する際に求める支援

- ✓ ノウハウや教育コンテンツの提供、教職員間の連携に関する支援を求める声が多かった

自学でアントレ教育を実施する際に求める支援について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

ノウハウの提供

- 正課授業と課外活動の連携及び大学全体としてのプログラム設計を行う際のグランドデザインの支援
- システム運用
- カリキュラムの検証

教育コンテンツの提供

- こちらでアレンジできるような教材の共有、教材リスト
- 共通のフレームワークやフォーマットの教材提供
- 1日、2～3日、半期（15回）、通年（30回）それぞれのプログラムモデルの提供
- フレーム、各種シートの提供、フレームの埋めた事例、学生の話し合い事例動画、インタビュー事例動画

教職員間の連携

- 他大学の先生方との交流の場
- 作ったプログラムの内容について意見交換できる機会
- 既存の科目に組み込むことを検討する際のシラバスの妥当性についてアドバイス等のバックアップ
- 授業デザインの相談

アントレ教育を自学で展開する際の不安事項

- ✓ 教職員人材の不足、受講生獲得、学内理解に関する不安の声が見られた

アントレ教育を自学で展開する際の不安点について

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

教職員人材の不足

- ワークショップの運営（運営サポーターが不足）
- 対象をどこに絞るのか、教育効果を高める成功体験はどうやったら効率的に得られるのか、ワークショップにおける生徒への柔軟なレスポンス
- 講義の中に取り入れたときの参加者数の変化への対応、学生の理解度・進行度合いへの個別対応、予想外の展開があったときの対応

受講生獲得の不安

- 受講者の離脱
- 学生の認知・受講意欲喚起
- アントレプレナーシップに興味のある教員や学生がどのくらいいるか不明なこと
- 今まで実施したことが無いので、課外活動として実施した場合に参加者をどれだけ確保できるかが不安。

学内理解の不足

- 大学側（特に教育担当部門）の理解
- 正課内科目とする際のシラバスやディプロマポリシーとの関係
- 正課内プログラムで全学的に展開すること